質問票
（日本人専門家）

マレーシア国　マレーシア労働安全衛生能力向上計画　終了時評価
質問票（案）

2005年9月23日

平成16年9月28日（水）から10月15日（日）の終了時評価調査団の派遣に先立ち、質問票をお送りさせて頂きます。JICAでは、終了時評価を、JICAの事業サイクルの一つとして位置づけ、「プロジェクト目標の達成度、事業の効率性、今後の自立発展性の見通しなどの観点から評価する」ために実施しています。

JICAの評価方針では、プロジェクトの「事実」を確認した上で、PDM（Project Design Matrix: プロジェクトの計画概要表）を使って「評価5項目」の視点を中心に評価を実施しています。すなわち、プロジェクトの「実績」「プロセス」を確認した上で、5つの視点（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）から複眼的にプロジェクトの進捗状況を判断し、プロジェクトの効果発現・阻害要因を分析することを目的に評価を行っています。（PDMと評価5項目の関係は別添1参照）

本質問票は、終了時評価調査団が評価報告書を作成するにあたり、日本人専門家、カウンターパート、プロジェクトの関係者の方々からプロジェクトに関する情報を提供いただくとともに、プロジェクトに関する認識を確認するためのものです。

また、本質問票は、1）プロジェクトの実施プロセスに関する質問と、2）5項目評価に関する質問から構成されます。ご回答されるに当たり、本プロジェクトのPDM（別添2）と実施計画書（PO：Plan of Operation)をご確認願います。各ご担当専門分野以外のこともお分かりになる範囲でご回答ください。本事業のみならずJICA事業の改善のために貴重なご意見となりますので、忌憚の無いご意見を頂けますと幸に存じます。

ご協力の程宜しくお願い致します。

JICA評価団

回答者情報についてご記入ください。

（記入日:2005年　月　日）

氏名:

性別:　男性／女性

担当分野:

所属機関:

役職:

連絡先:　TEL:　　FAX:　　E-mail:

質問票記入上の留意点:

記述回答を求めている設問につきましてはできるだけ具体的にご説明いただけますようお願いいたします。また、選択肢を示している設問につきましては、該当事項をチェックしていただき、回答に関する設問がある場合にはそれに沿ってご回答いただけますようお願いいたします。

PART1：プロセスの把握のための質問

1．プロジェクトのモニタリング(進捗管理)はどのように行われていますか。

①中間評価以降の合同調整委員会（Joint Coordinating Committee）（年二回実施予定、出席者：Project Director(DOSH 局長)、Project Manager(NIOSH 所長)、カウンターパート、JICA マレーシア事務所所員、調査団員）の実施状況：

□ a. 定期的に行われた □ b. ほぼ定期的に行われた。 □ c. 十分行われていない

→それらのモニタリングのための会合は効率的に行われましたか。また出席率は十分でしたか？ 改善点があればご意見をお聞かせください。

（　　　）

②中間評価以降の運営委員会（Steering Committee）（毎月 1 回実施予定、出席者：NIOSH 所長、NIOSH 各課課長、日本人専門家）の実施状況：

□ a. 定期的に行われた □ b. ほぼ定期的に行われた。 □ c. 十分行われていない

→それらのモニタリングのための会合は効率的に行われましたか。また出席率は十分でしたか？ 改善点があればご意見をお聞かせください。

（　　　）

③中間評価以降モニタリングの結果は事業の改善等に活かされましたか。□a. はい □ b. いいえ

→a.と回答された場合、具体的に改善された内容についてご記入ください。（PDM、詳細活動計画の軌道修正等）

（　　　）

2. NIOSH の運営に関する意志決定メカニズムは、プロジェクト目標の達成のために十分な権限を持ち、機能していますか？（例えば、プロジェクトに人員不足が生じた場合、人員補充の対策に関する意思決定を迅速に行えるか等）

①NIOSH の活動内容に関する事項：

□a.適切 □ b. 改善の必要がある □ c. どちらともいえない

②NIOSH の組織体制に関する事項：

□a.適切 □ b. 改善の必要がある □ c. どちらともいえない

③NIOSH の資金計画に関する事項：

□a.適切 □ b. 改善の必要がある □ c. どちらともいえない

→上記の①～③において、b.と回答された場合、具体的に改善すべきと思われる内容についてお教えください。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

3.　日本人専門家（長期・短期）とカウンターパートおよび NIOSH スタッフとのコミュニケーションは適切に行われていますか。

①日常的なコミュニケーション

□ a. 適切である □ b. 改善の必要がある □ c. どちらともいえない

→b.と回答された場合、改善が必要とされる事項について具体的にご記入ください。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

②情報交換、共同作業改善のための議論、その後のアクション等に満足ですか。

□ a. 満足である □ b. 改善の必要がある □ c.どちらともいえない

→b.と回答された場合、改善が必要とされる事項について具体的にご記入ください。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

4.　マレーシア側のオーナーシップは確立されましたか。

①DOSH による NIOSH 運営への支援、

□ a. 積極的に支援している □b. 支援は不十分である □ c. どちらともいえない

②C/P 配置の適正度

C/P の数：　□ a. 適正である。 □ b.不十分である □ c. どちらともいえない

C/P の質：　□ a. 適正である。 □ b.不十分である □ c. どちらともいえない

③プロジェクトにより向上した NIOSH の能力強化についてマレーシア政府は積極的に活用する方策をとりましたか？または今後、計画がありますか？

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

5.　プロジェクトの実施プロセス（プロジェクト内およびプロジェクト外）において特筆すべき事項（工夫されている点、今後の改善点等）がありましたら、ご記入ください。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

PART 2:5 項目評価のための質問

1. 妥当性

1.1 プロジェクト目標「NIOSH の機能（技術支援、人材開発、情報収集と提供）が向上する。」はマレーシアの産業界のニーズに合致していると考えますか？

□ a. 合致している。 □ b. ほぼ合致している。□ c. 合致していない。

→b または c と回答された場合、その理由をご記入ください。

（　　　　　　　　　　　　　　）

＊マレーシアの労働安全衛生政策におけるプロジェクトの位置づけを明記した資料があれば拝見いたしたく存じます。

1.2 NIOSH の活動およびプロジェクトの移転技術内容と、DOSH の規則・ガイドライン等とは整合していますか。

□ a. 整合している。 □ b. ほぼ整合している。□ c. 整合していない。

→b または c と回答された場合、その理由をご記入ください。

（　　　　　　　　　　　　　　）

1.3 本プロジェクトのターゲットグループを NIOSH の職員としたことは、上位目標の達成のために妥当であると考えますか。(NIOSH の機能強化が、マレーシアの労働安全衛生機能向上に繋がるかどうかの観点等から）

□ a. 妥当である。 □ b. ほぼ妥当である。□ c. 妥当でない。

→b または c と回答された場合、その理由をご記入ください。

（　　　　　　　　　　　　　　）

1.4 本プロジェクトの計画・アプローチは妥当であったと考えますか。

□ a. 妥当である。 □ b. ほぼ妥当である。□ c. 妥当でない。

→b または c と回答された場合、その理由をご記入ください。

（　　　　　　　　　　　　　　）

1.5 日本の技術をNIOSHに移転する比較優位があると考えますか。

☐ a. 妥当である。 ☐ b. ほぼ妥当である。☐ c. 妥当でない。

→bまたはcと回答された場合、その理由をご記入ください。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

2. 有効性

2.1 プロジェクト目標について

①プロジェクトの実施に携わる関係者間で、プロジェクト目標「NIOSH の機能（技術支援、人材開発、情報収集と提供）が向上する」についての明確な認識が共有されていますか。

☐ a. 明確な共通認識がある ☐ b. 明確ではないが共通認識はある ☐ c. 共通認識はない

☐ d. その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

→cと回答された場合、その理由をご記入ください。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

②プロジェクト目標の達成度合い(プロジェクト終了時までの見込み)をどのように考えますか？

	十分達成する	達成の見込みは高い	達成は困難である	現状では不明
NIOSH の能力強化（技術支援機能）	☐	☐	☐	☐
NIOSH の能力強化（人材開発機能）	☐	☐	☐	☐
NIOSH の能力強化（情報収集と提供機能）	☐	☐	☐	☐

→特記事項があれば、ご記入ください。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

③プロジェクトのアウトプットの達成とプロジェクト目標達成との間に十分な因果関係がありましたか。

	十分ある	ある	あまりない	全くない
NIOSH の能力強化（技術支援機能）	☐	☐	☐	☐
NIOSH の能力強化（人材開発機能）	☐	☐	☐	☐
NIOSH の能力強化（情報収集と提供機能）	☐	☐	☐	☐

また、具体的にカウンターパート(C/P)に移転された技術がどのように、NIOSH の能力向上に繋がっているのかご記入ください。

NIOSH の技術支援機能

NIOSH の人材開発機能

NIOSH の情報収集、提供機能

2.2 プロジェクト目標の達成を阻害する要因、または促進要因はありますか？

3. 効率性

3.1 投入について

① 日本側投入（イ.日本人専門家、ロ.C/P 日本研修、ハ.機材供与、ニ.現地活動経費）は活動に効率的に活用されていますか。

□ a. 効率的に活用されている □b. 活用されているが効率的とはいえない

□ c. 十分に活用されていない

→b、c と回答された場合、どのような点で効率的でないのか、問題点等具体的にご記入ください。

② マレーシア側投入（①土地、建物、設備、②C/P の配置、③プロジェクトの運営経費）は活動に効率的に活用されていますか。

□ a. 効率的に活用されている □b. 活用されているが効率的とはいえない

□ c. 十分に活用されていない

→b、c と回答された場合、どのような点で効率的でないのか、問題点等具体的にご記入ください。

3.2 達成された成果から見て、投入の質、量、タイミングは適切でしたか。それぞれの投入について、不適切と思われるものがあった場合、該当する項目にチェックし、理由をご記入ください。(複数回答可)

(1) 日本側

	質			量			タイミング		
	とても適切	適切	改善点あり	とても適切	適切	改善点あり	とても適切	適切	改善点あり
a. 日本人専門家	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
b. C/P 日本研修	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
c. 機材供与	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
d. 現地活動経費	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

(2) マレーシア側

	質			量			タイミング		
	とても適切	適切	改善点あり	とても適切	適切	改善点あり	とても適切	適切	改善点あり
a. 土地、建物、設備	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
b. C/P の配置、定着度	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
c. プロジェクトの運営経費	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
d. 機材等	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

→上記回答について、特筆すべき事項があれば、お教えください。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

3.3 本事業のアウトプット達成において、他の類似プロジェクトの実施により、プラスの効果が見られましたか。または、実際は類似プロジェクトはなかったが、もしそれがあれば、よりプロジェクトのアウトプットの達成度合いが高まったであろうものがあればお教えください。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

4. インパクト

4.1 上位目標について

① プロジェクトの終了後に「マレーシアにおける労働災害及び職業病が減少する。」という上位目標の達成の見込みはありますか。

☐ a. 達成の見込み 80%以上　☐ b. 達成の見込み 50%以上　☐ c. 達成の見込み 50%未満
☐ d. 達成の見込みはない

→ 達成の見込みがある場合、それはプロジェクト目標達成の結果によってもたらされるものだと考えますか。

☐ a. プロジェクト目標達成の結果である　☐ b. プロジェクト目標達成の結果ではない
☐ c. どちらともいえない

→ その理由をご記入ください。（NIOSH の組織外への技術普及についての実績と展望との関連があればそれについて記入してください。）

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

→ 達成の見込みはない、または低いと考える場合、その理由をお教えください。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

4.2 上位目標の達成に影響を及ぼす要因（国家政策変更等）はありますか。それは何ですか。 具体的にご記入ください。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

4.3 その他プロジェクトの実施による、プラス・マイナスのインパクトはありますか。または、将来、発現する見込みはありますか？

	現在発現している		将来発現する見込みがある		将来発現する見込みはない		どちらともいえない	
	プラス	マイナス	プラス	マイナス	プラス	マイナス	プラス	マイナス
a. 政策・制度的インパクト	□	□	□	□	□	□	□	□
b. 社会的・文化的インパクト	□	□	□	□	□	□	□	□
c. 技術的インパクト	□	□	□	□	□	□	□	□
d. その他 ＿＿＿＿＿＿	□	□	□	□	□	□	□	□

→ 上記のプラス・マイナスいずれかのインパクトがあると考えられる項目について、具体的にご記入ください。

（　　　　　　　　　　）

5. 自立発展性

5.1 プロジェクト目標達成によるプロジェクトの効果は、プロジェクト終了後も維持される見込みはありますか。

□ a. 維持される見込み 80%以上 □ b. 維持される見込み 50%以上

□ c. 維持される見込み 50%未満 □ d. 維持される見込みはない

→その理由を具体的にご記入ください。

（　　　　　　　　　　）

5.2 政策、制度的側面から、今後もマレーシア政府の政策の一環としてプロジェクトの効果が、維持・発展されていくと考えますか。

□ a. 維持・発展されていく □ b. 維持されていく □ c. 維持が難しい

→ それぞれ、その理由を具体的に記述してください。

（　　　　　　　　　　）

5.3 NIOSH の組織面（人材配置、意思決定プロセス、マレーシア政府のオーナーシップ）から判断し、プロジェクトの効果が、維持・発展されていくと考えますか。

☐ a. 維持・発展されていく　☐ b. 維持されていく　☐ c. 維持が難しい

→ それぞれ、その理由を具体的にご記入ください。

（　　　　）

5.4 NIOSH の財務面（独立行政法人として、経常経費を含む資金面の確保の継続性）から判断し、プロジェクトの効果が、維持・発展されていくと考えますか。

☐ a. 維持・発展されていく　☐ b. 維持されていく　☐ c. 維持が難しい

→ それぞれ、その理由を具体的にご記入ください。

（　　　　）

5.5 NIOSH の技術面（①供与機材の維持管理能力、②技術の NIOSH 内での定着、普及能力）から判断し、プロジェクトの効果が、維持・発展されていくと考えますか。

☐ a. 維持・発展されていく　☐ b. 維持されていく　☐ c. 維持が難しい

→ それぞれ、その理由を具体的にご記入ください。

（　　　　）

5.6 その他、プロジェクトの効果の持続性に影響を及ぼす要因はありますか。具体的にご記入ください。

（　　　　）

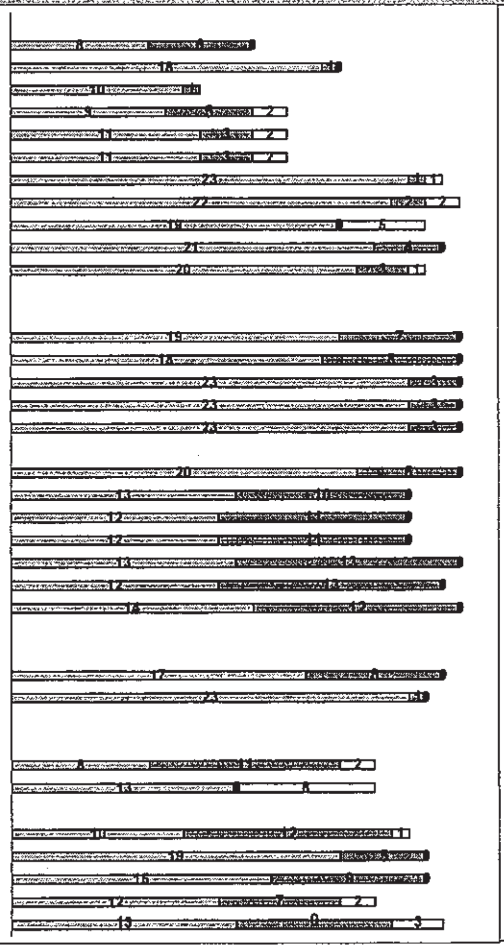
本プロジェクトに関するコメントや提案があれば、ご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

質問票集計結果

全サンプル(N=27) 集計結果

設問No		回答数	1	2	3	(無回答)	備考		
プロセスの把握のための質問							1：定期的に行われた	2：ほぼ定期的に行われた	3：十分行われていない。
1-①	JCCの実施状況	14	8	6	0	13	1：定期的に行われた	2：ほぼ定期的に行われた	3：十分行われていない。
1-②	Steering Committee の実施状況	19	18	1	0	8	1：はい	2：いいえ	
1-③	モニタリング結果の反映状況	11	10	1		16	1：適切である	2：改善の必要がある	3：どちらともいえない
2-①	NIOSHの運営体制(活動面)	16	9	5	2	11	1：適切である	2：改善の必要がある	3：どちらともいえない
2-②	NIOSHの運営体制(組織体制)	16	11	3	2	11	1：適切である	2：改善の必要がある	3：どちらともいえない
2-③	NIOSHの運営体制(資金計画)	16	11	3	2	11	1：適切である	2：改善の必要がある	3：どちらともいえない
3-①	日本人専門家とのコミュニケーション	25	23	1	1	2	1：適切である	2：改善の必要がある	3：どちらともいえない
3-②	改善のためのアクション	26	22	2	2	1	1：適切である	2：改善の必要がある	3：どちらともいえない
4-①	DOSHのプロジェクトへの支援	24	19	0	5	3	1：積極的に支援している	2：不十分である	3：どちらともいえない
4-② 数	C/P配置の適正度(数)	25	21	4	0	2	1：適正である	2：不十分である	3：どちらともいえない
4-② 質	C/P配置の適正度(質)	24	20	3	1	3	1：適正である	2：不十分である	3：どちらともいえない
評価5項目のための質問									
1. 妥当性									
1-1	プロ目の産業界のニーズとの合致	26	19	7	0	1	1：合致している	2：ほぼ合致している	3：合致していない
1-2	プロジェクト内容とDOSH規則等との整合性	26	18	8	0	1	1：整合している	2：ほぼ整合している	3：整合してない
1-3	ターゲットグループの妥当性	26	23	3	0	1	1：妥当である	2：ほぼ妥当である	3：妥当でない
1-4	プロジェクトの計画・アプローチの妥当性	26	23	3	0	1	1：妥当である	2：ほぼ妥当である	3：妥当でない
1-5	日本の技術の比較優位	26	23	3	0	1	1：妥当である	2：ほぼ妥当である	3：妥当でない
2. 有効性									
2-1-①	プロ目の認識の共有	26	20	6	0	1	1：明確な共通認識がある	2：明確でないが共通認識がある	3：共通認識はない
2-1-②a	NIOSHの技術支援機能強化の達成度合い	23	13	10	0	4	1：十分達成する	2：他姓の見込みは高い	3：達成は困難
2-1-②b	NIOSHの人材開発機能強化の達成度合い	23	12	11	0	4	1：十分達成する	2：他姓の見込みは高い	3：達成は困難
2-1-②c	NIOSHの情報収集・提供機能強化の達成度合い	23	12	11	0	4	1：十分達成する	2：他姓の見込みは高い	3：達成は困難
2-1-③a	プロ目とアウトプットの因果関係(技術支援機能)	26	13	13	0	1	1：十分ある	2：ある	3：あまりない
2-1-③b	プロ目とアウトプットの因果関係(人材開発機能)	25	12	13	0	2	1：十分ある	2：ある	3：あまりない
2-1-③c	プロ目とアウトプットの因果関係(情報収集・提供機能)	26	14	12	0	1	1：十分ある	2：ある	3：あまりない
3. 効率性									
3-1-①	日本側投入の活用度合い	25	17	8	0	2	1：効率的に活用されている	2：活用されているが効率的でない	3：十分活用されていない
3-1-②	マレーシア側投入の活用度合い	24	23	1	0	3	1：効率的に活用されている	2：活用されているが効率的でない	3：十分活用されていない
3-2	各投入の適切性	次ページ参照							
4. インパクト									
4-1-①	上位目標の達成見込み	21	8	11	2	6	1：達成見込み80%以上	2：達成見込み50%以上	3：達成見込み50%未満
4-1-②	上位目標の達成とプロジェクトの因果関係	21	13	0	8	6	1：因果関係あり	2：因果関係なし	3：どちらともいえない
5. 自立発展性									
5-1	プロジェクトの効果の維持される見込み	23	10	12	1	4	1：維持見込み80%以上	2：維持見込み50%以上	3：維持見込み50%未満
5-2	政策制度面	24	19	5	0	3	1：維持・発展されていく	2：維持されていく	3：維持が難しい
5-3	NIOSHの組織面	24	15	9	0	3	1：維持・発展されていく	2：維持されていく	3：維持が難しい
5-4	NIOSHの財務面	21	12	7	2	6	1：維持・発展されていく	2：維持されていく	3：維持が難しい
5-5	NIOSHの技術面	25	13	9	3	2	1：維持・発展されていく	2：維持されていく	3：維持が難しい

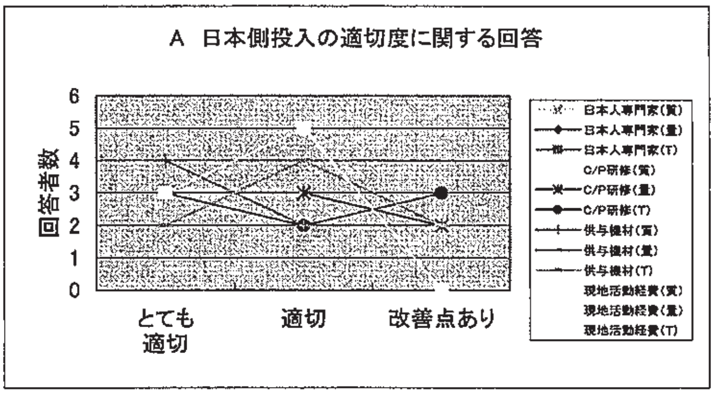


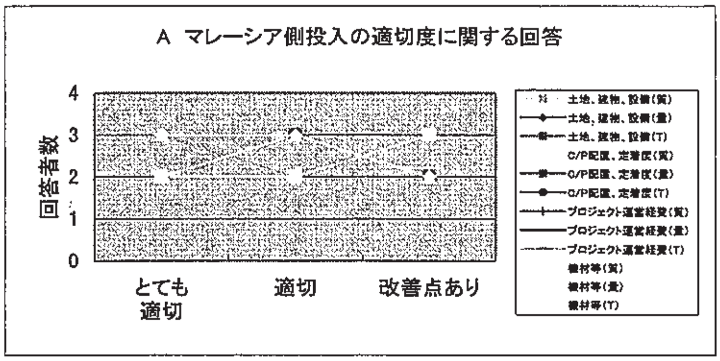
設問No	プロジェクトのプラス・マイナスのインパクト	回答数	現在発現している		将来発現見込みあり		将来発現見込みなし		どちらともいえない	(無回答)
			プラス	マイナス	プラス	マイナス	プラス	マイナス		
4-3a	政策・制度的インパクト	16	11	0	8	0	1	0	2	14
4-3b	社会的・文化的インパクト	17	8	0	10	0	1	0	3	13
4-3c	技術的インパクト	17	13	0	8	0	0	0	2	12
4-3d	その他	2	2	0	0	0	0	0	0	25

質問票集計結果(各投入の適切性) 1/2

A(DOSH所長、NIOSH所長、情報課、研修課、安全課):サンプル数(N=9) 集計結果

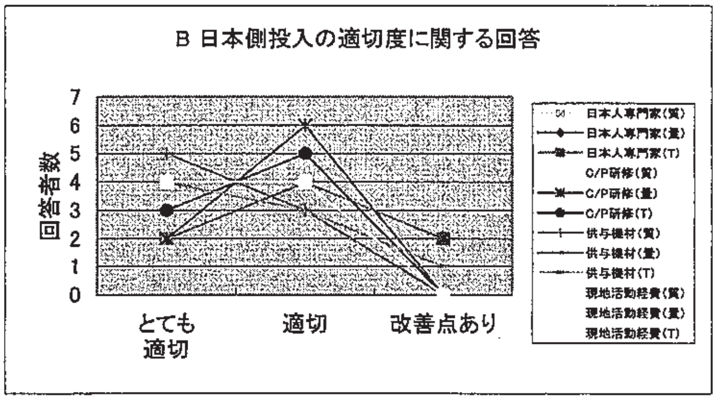
	とても適切	適切	改善点あり	(無回答)
日本人専門家(質)	3	5	0	1
日本人専門家(量)	3	5	0	1
日本人専門家(T)	3	5	0	1
C/P研修(質)	3	3	2	1
C/P研修(量)	3	3	2	1
C/P研修(T)	3	2	3	1
供与機材(質)	4	2	2	1
供与機材(量)	3	3	2	1
供与機材(T)	2	4	2	1
現地活動経費(質)	3	5	0	1
現地活動経費(量)	3	5	0	1
現地活動経費(T)	3	5	0	1
	とても適切	適切	改善点あり	(無回答)
土地、建物、設備(質)	3	2	3	1
土地、建物、設備(量)	2	3	2	2
土地、建物、設備(T)	2	3	2	2
C/P配置、定着度(質)	3	3	2	1
C/P配置、定着度(量)	2	2	3	2
C/P配置、定着度(T)	2	3	2	2
プロジェクト運営経費(質)	3	3	2	1
プロジェクト運営経費(量)	2	3	2	2
プロジェクト運営経費(T)	2	3	2	2
機材等(質)	3	3	2	1
機材等(量)	2	2	3	2
機材等(T)	2	3	2	2

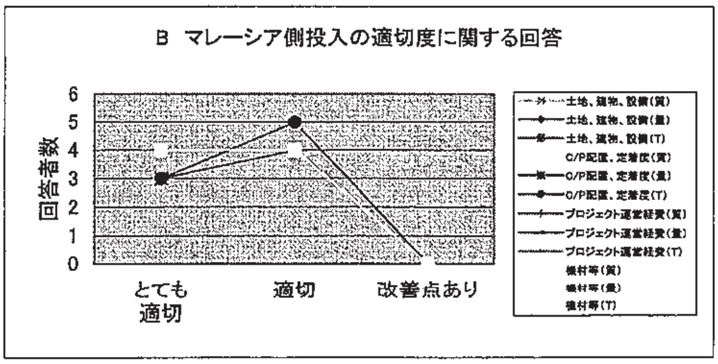




B(産業衛生課):サンプル数(N=9) 集計結果

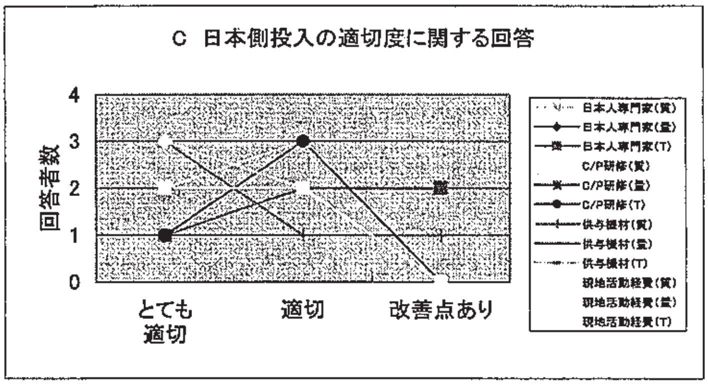
	とても適切	適切	改善点あり	(無回答)
日本人専門家(質)	5	3	0	1
日本人専門家(量)	4	4	0	1
日本人専門家(T)	2	4	2	1
C/P研修(質)	4	4	0	1
C/P研修(量)	2	6	0	1
C/P研修(T)	3	5	0	1
供与機材(質)	5	3	0	1
供与機材(量)	4	4	0	1
供与機材(T)	4	3	1	1
現地活動経費(質)	4	4	0	1
現地活動経費(量)	4	4	0	1
現地活動経費(T)	4	4	0	1
	とても適切	適切	改善点あり	(無回答)
土地、建物、設備(質)	4	4	0	1
土地、建物、設備(量)	4	4	0	1
土地、建物、設備(T)	4	4	0	1
C/P配置、定着度(質)	3	5	0	1
C/P配置、定着度(量)	3	4	0	2
C/P配置、定着度(T)	3	5	0	1
プロジェクト運営経費(質)	4	4	0	1
プロジェクト運営経費(量)	4	4	0	1
プロジェクト運営経費(T)	4	4	0	1
機材等(質)	4	4	0	1
機材等(量)	4	4	0	1
機材等(T)	4	4	0	1

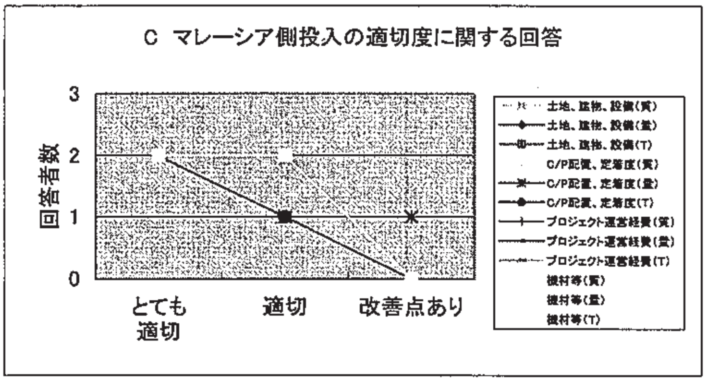




C（産業保健課）：サンプル数（N=5） 集計結果

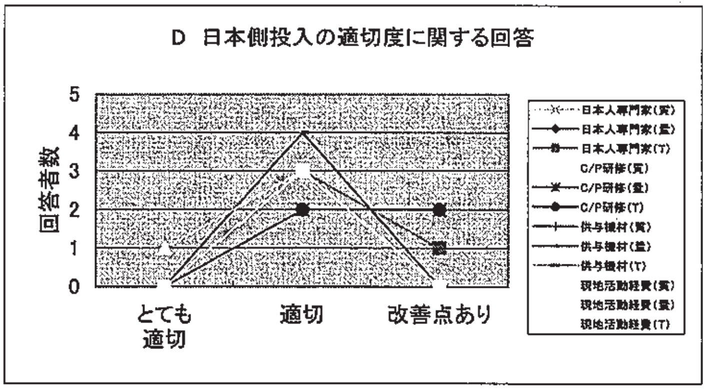
	とても適切	適切	改善点あり	（無回答）
日本人専門家（質）	3	2	0	0
日本人専門家（量）	2	3	0	0
日本人専門家（T）	1	2	2	0
C/P研修（質）	2	3	0	0
C/P研修（量）	2	2	0	1
C/P研修（T）	1	3	0	1
供与機材（質）	3	1	1	0
供与機材（量）	2	2	0	1
供与機材（T）	2	2	0	1
現地活動経費（質）	3	2	0	0
現地活動経費（量）	2	2	0	1
現地活動経費（T）	2	2	0	1
	とても適切	適切	改善点あり	（無回答）
土地、建物、設備（質）	2	2	0	1
土地、建物、設備（量）	2	2	0	1
土地、建物、設備（T）	2	2	0	1
C/P配置、定着度（質）	2	2	0	1
C/P配置、定着度（量）	2	1	1	1
C/P配置、定着度（T）	2	1	0	2
プロジェクト運営経費（質）	2	2	0	1
プロジェクト運営経費（量）	2	2	0	1
プロジェクト運営経費（T）	2	2	0	1
機材等（質）	2	2	0	1
機材等（量）	2	2	0	1
機材等（T）	2	2	0	1

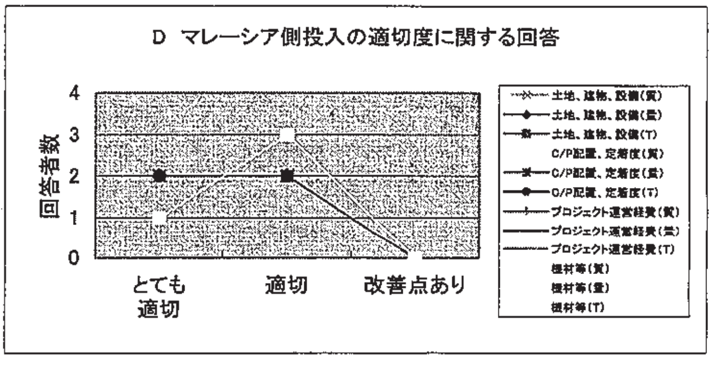




D（人間工学課）：サンプル数（N=4） 集計結果

	とても適切	適切	改善点あり	（無回答）
日本人専門家（質）	1	2	1	0
日本人専門家（量）	0	3	0	1
日本人専門家（T）	0	3	1	0
C/P研修（質）	1	3	0	0
C/P研修（量）	0	2	2	0
C/P研修（T）	0	2	2	0
供与機材（質）	1	3	0	0
供与機材（量）	0	4	0	0
供与機材（T）	1	3	0	0
現地活動経費（質）	0	3	0	1
現地活動経費（量）	0	3	0	1
現地活動経費（T）	1	3	0	0
	とても適切	適切	改善点あり	（無回答）
土地、建物、設備（質）	1	3	0	0
土地、建物、設備（量）	1	3	0	0
土地、建物、設備（T）	1	3	0	0
C/P配置、定着度（質）	2	2	0	0
C/P配置、定着度（量）	2	2	0	0
C/P配置、定着度（T）	2	2	0	0
プロジェクト運営経費（質）	1	3	0	0
プロジェクト運営経費（量）	1	3	0	0
プロジェクト運営経費（T）	1	3	0	0
機材等（質）	1	3	0	0
機材等（量）	1	3	0	0
機材等（T）	1	3	0	0





PART1：プロセスの把握のための質問

		日本人専門家(4名)	NIOSH 所長	職業保健課 課長 (医師)	DOSH 局長	産業保健課 スタッフG(医師)	産業保健課 スタッフH (一時 IT の部署に移動した。10 月 1 日から戻る)	産業保健課 スタッフI
1.	プロジェクトのモニタリング(進捗管理)はどのように行われていますか。 ① 中間評価以降の合同調整委員会(Joint Coordinating Committee)(年二回実施予定)	ほぼ定期的に実施した。大使館への報告を充実させる余地があった。DOSH 局長に、前NIOSH 所長(Dr. Johari)が就任したことから、2004 年度は、NIOSH 所長(Dr. Abu Bakar)へのブリーフィングを優先した。	今年は 1 度(5 月 17 日)だけ開かれた。	定期的に開催された。	定期的に開催された。(NIOSH 所長が時々来なかったが。)	定期的に開催された。	定期的に開催された。	
	② 運営委員会(Steering Committee)(毎月 1 回実施予定)	きわめて良好。定期的に実施した。内容も適切。	良好に開催され、プロジェクトの順調な進捗に繋がった。	定期的に開催された。	定期的に開催された。	定期的に開催された。	定期的に開催された。	
	③ 中間評価以降モニタリングの結果は事業の改善等に活かされましたか。	●技術移転のテーマの決定、C/P 研修員の選定、日本からの来客、共同セミナー開催の打ち合わせ等に有効に活用された。●職業病の事例収集をSOEM と協力して行えた。●PPE ガイドラインについてPDM を変更し、PPE に関するセミナーを開催、小冊子も 2 種類作成した。C/P ボンド制の導入、2 次技術移転が行われた。	いろいろな改善策がとられた。例：NIOSH－JICA セミナーを NIOSH メンバーや、DOSH、大学、その他一般にも広げた。また、研修参加 C/P が学んだことを他の人に広げるための Technical Talks (1-2 時間程度)を持った。この 3 年間は頻繁に開催した。	C／P研修に行った職員に対して、1 年間のボンド制度を導入した。	思い出せないが、いくつか重点の変更が行われた。大きな変更はなかったと考える。	はい。	N.A.	
2	NIOSH の運営に関する意志決定メカニズムは、プロジェクト目標の達成のために十分な権限を持ち、機能していますか？(活動内容、組織体制、資金計画)	●NIOSH の活動内容、組織体制、資金計画に関する決定は、プロジェクトに関しては、適切に行われた。●NIOSH の収入増加のため、研修、測定ばかりに忙殺されて、職員の能力向上のための研究活動が難しい。	NIOSH の Board Member は長期的目標等を決定した。JICA との連携はNIOSH経営陣が担当し、Monitoring Meeting を通じて、すべて問題なく実行した。(例えば、NIOSHの経営陣は、20 万 RM 以下の資金使途についての決定権を有する。	はい。	NIOSH の Executive Director (ED)に聞いてもらいたい。NIOSH は、NIOSH 独自の理事会を持っているので。	はい。	はい。	
3	日本人専門家(長期・短期)とカウンターパートおよび NIOSH スタッフとのコミュニケーションは適切に行われていますか。	日常的なコミュニケーションについては 4 人が適切であると回答。議論後のアクションの実施について、3 人が満足であったとの回答、1 人は、マレーシア合意事項を実施に移すまで時間がかかることを指摘。	いつでも、Coffee Shop、Lunch などでも、会うことができ、適切。NIOSHとしても、JICA Team の活動可能範囲、資金拠出可能範囲等把握しており、協力している。	いずれも良好	NIOSH の ED に聞いてもらいたい。	いずれも良好。久永先生はとても、現場経験が豊富でよかった。	いずれも良好	自分はあまり関わりがない。Dr. Agus に聞いて欲しい。

		日本人専門家(4名)	NIOSH所長	職業保健課課長(医師)	DOSH局長	産業保健課スタッフG(医師)	産業保健課スタッフH	産業保健課スタッフI
4	マレーシア側のオーナーシップは確立されましたか。 ① DOSHによるNIOSH運営の支援	DOSHのNIOSHへの支援は2名が積極的に支援していると回答、2名がどちらともいえないと回答。	DOSHは、法執行機関であり、事業者(産業)の問題点を特定する。	いずれも良好。	NIOSHのEDに聞いてもらいたい。	いずれも良好	いずれも良好。	いずれも良好
	② C/P配置の適正度	3名がC/Pの質、量ともに適正と回答。1名(調整員)は、不十分と回答。	C/Pの数、質ともに改善の余地があるが、現状の中で最善を尽くして配置した。NIOSHには、経験があまりない若いスタッフが多かった。従って、日本から技術移転を受ける場合、経験者が受けるのに比べ、時間や訓練をより必要とした。また、NIOSHは収益を上げる必要があるので、技術移転を受けるために十分時間を割けなかった面もある。この国では、当分野での10年程度の経験があれば、コンサルタントとして独立するケースも多い。		NIOSHのEDに聞いてもらいたい。	いずれも良好	C/Pの退職は問題。	いずれも良好
	③ プロジェクトにより向上したNIOSHの能力強化について,マレーシア政府は積極的に活用する方策をとりましたか？または今後、計画がありますか？	マレーシア政府は、NIOSHの支店増強策を実行しつつある。	このJICAプロジェクトは、NIOSHの専門性を高めたと思う。例えば「排気」の技術は多くの会社で有効に使われている。	N. A.	EDに聞いてもらいたい。	OSH Awareness, 研修、技術支援サービス、情報提供を加速した。	マレーシアにおけるOSH Awarenessは向上したと考える。	
5.	プロジェクトの実施プロセス(プロジェクト内およびプロジェクト外)において特筆すべき事項(工夫されている点、今後の改善点等)	●必要な業務を真摯に実行。 ●中間評価以降、NIOSHのみならずマレーシアの産業衛生にかかわる大学、役所との連携を深めていったこと。(例、JICAセミナーの外部への開放、SOEMとの共同研究会開催など)	プロジェクトのSustainabilityについて気を配っている。機材の維持費用には多くの資金が必要である。また、機材の有効活用が出来る(産業界から多くサンプルが集まる)か否かは、産業界の需要によるところが大きい。(Awarenessや、DOSHによるEnforcementが同時に必要。)現在機材のいくつかは、研究以外に使われないものもある。また、消耗品も買う必要がある。しかし、現在、NIOSHの収入は年間10%程度増加している。(また、企業への必要経費負担を求めている)	C/P研修の最後に、研修員の達成度についてテストを実施し、資格のようなものを提供して欲しい。	ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞに関する提言がある。プロジェクトの目的(Objective)は複数あり、それぞれ、指標が設定されておりよい。しかし、プロジェクト全体としてのインパクトについても、指標があると良かった。例えば、労働者の意識がどう変化したか等を、モニタリングするように設定すると良い。	Occupational Healthに関する技術支援を増やしたほうがよい。	N.A.	短期専門家の研修は、講義形式のみでなく、現場実習を伴うものが良かった。

PART 2:5 項目評価のための質問

		日本人専門家(4名)	NIOSH 所長	職業保健課課長(医師)	DOSH 局長	産業保健課スタッフG(医師)	産業保健課スタッフH	産業保健課スタッフI
1.1	プロジェクト目標「NIOSH の機能(技術支援、人材開発、情報収集と提供)が向上する。」はマレーシアの産業界のニーズに合致していると考えますか?	2名が合致していると回答。2名がほぼ合致していると回答。(残りは、●「ユーザーの要望は多様であるので、すべて合致しているとはいえないが、かなり合致している」。●「マ国と日本では法律体系が違うので、必ずしも一致しないことがある」と回答。	ほぼ合致している。(この国の、産業の基準はイギリスのシステムに従っているため、基準値の於きかたには違いがある。また、日本は厚生労働省が Public Health から労働安全衛生まですべて担当しているが、この国では、MOH と Ministry of Human Resource が担当しており、相違がある。そういう意味で多少の調整の必要はあるが妥当であった。	極めて妥当	極めて妥当。	極めて妥当。	極めて妥当。	極めて妥当。
1.2	NIOSH の活動およびプロジェクトの移転技術内容と、DOSH の規則・ガイドライン等とは整合していますか。	4名とも整合していると回答。	DOSH は、フレームワークを作成しているに過ぎず、実際の技術的な内容は NIOSH が支援している。ゆえに整合している。	極めて妥当	極めて妥当。	極めて妥当。	極めて妥当。	極めて妥当。
1.3	本プロジェクトのターゲットグループを NIOSH の職員としたことは、上位目標の達成のために妥当であると考えますか。(NIOSH の機能強化が、マレーシアの労働安全衛生機能向上に繋がるかどうかの観点等から)	4名とも妥当であると回答。	ほぼ適当であった。(NIOSH のｽﾀｯﾌは経験が浅い者が多く、技術のレベルにギャップがある。しかし、Manager レベルのニーズ、組織としてのニーズには合致していた。)	極めて妥当	極めて妥当。(NIOSH は外部に対して研修を実施している機関であり、C/P が学んだことを普及することが出来るので、プロジェクトの効果を増大できると考える。	極めて妥当。	極めて妥当。	極めて妥当。
1.4	本プロジェクトの計画・アプローチは妥当であったと考えますか。	4名とも妥当であったと回答。(●NIOSH の研修事業への支援については、既に立派に行われていたので、プロジェクトの関与度は低かったと指摘あり。)	極めて妥当。日本人専門家が、技術を教え、その上で、C/P 研修において日本での具体的実施例を経験するのは、よいアプローチであった。	極めて妥当	極めて妥当。	極めて妥当。短期専門家は、派遣期間が2週間であり、明確な目的がありよい。C/P研修では、既に Establish されたことを学べるが、マレーシアにおいては、どう適応していくかを学べるので良い。	極めて妥当。	極めて妥当。
1.5	日本の技術を NIOSH に移転する比較優位があると考えますか。	4名とも比較優位性があり妥当と回答。(●法令・制度の違いはあるものの純科学技術は万国共通である。)	極めて妥当、この国には、日系企業も多く、また、日本は、アジアの一員であり、(人のサイズ、文化も似ており)、日本の技術は適当である。	極めて妥当	妥当	極めて妥当。	極めて妥当。	極めて妥当。

		日本人専門家(4名)	NIOSH 所長	職業保健 (医師)	Dr.Azul Occupational Helath 課長	産業保健 Mr. Uzaini (Occupational Health)	Mr. Hanif (Occupational Health)
2.1	プロジェクト目標について ①プロジェクトの実施に携わる関係者間で、プロジェクト目標「NIOSHの機能(技術支援、人材開発、情報収集と提供)が向上する」についての明確な認識が共有されていますか。	3名が明確な共通認識があると回答。1名は明確でないが共通認識はあると回答。(●PDM を Steering Committee で参照した。)	明確とはいえないが共通認識があった。	明確な共通認識があった。	共通認識があった。	共通認識があった。	明確な共通認識があった。
	②プロジェクト目標の達成度合い(プロジェクト終了時までの見込み)をどのように考えますか?	技術、人材開発、情報収集・提供機能ともに「十分達成する」との回答。ただし、技術支援機能については「達成の見込みは高い」(産業衛生)	いずれの面においても、「十分達成する」との回答。	いずれの面においても、「達成見込みが高い。」と回答。	技術面での、支援は大きかった。しかし、NIOSH ｽﾀｯﾌの適正な人材開発、キャリア Development の面では、また、時間がかかるだろう。	いずれの面においても、「達成見込みが高い。」と回答。	いずれの面においても、「十分達成する」との回答。
	③プロジェクトのアウトプットの達成とプロジェクト目標達成との間に十分な因果関係がありましたか。	技術、人材開発、情報収集・提供機能ともに、「因果関係が十分ある」との回答。 具体的には (リーダー) 共同セミナーは情報提供に有益であった。日常的には供与機材の活用が有効であった。 (職業保健) コンサル機能(振動測定・THP等)。産業医、産業看護職の認定、セミナー開催の増加。 (産業衛生) C/P 研修参加者を講師としたセミナーを開催し、好評をえるなど、情報提供機能は効果的に稼動している。	技術、人材開発、情報収集・提供機能ともに、「因果関係が十分ある」との回答。 具体的には、 技術面(実験室での機材の使用方法を学んだ。) 人材育成面(若いｽﾀｯﾌが、知識を身につけ、自信を持って、Field Work を実施できるようになった。事業者へｻｰﾋﾞｽを提供することにより、NIOSH の収入が増加している。コンサルｻｰﾋﾞｽの対象企業も70%増加している。 情報収集、提供面(多くの、冊子が発行された。)	技術、人材開発、情報収集・提供機能ともに、「因果関係がある」との回答。 技術面: 移動検診車(Mobile Occupational Medicine Clinic)は、マレーシアにおいてはじめての試みであった。 人材育成面: ● Training in Occupational Medicine が実施できるようになった。●人材が育成されて、トレーニングを行っている。 情報収集、提供面 多様な参考図書が入手できた。	いずれの「因果関係がある」との回答。情報収集、提供機能は、「因果関係が十分ある」との回答。 技術支援 コンサルｻｰﾋﾞｽを強化した。 人材育成面 知識を得、自信に繋がった。 情報収集、提供 系統だった提供が可能になった。	技術、人材開発、情報収集・提供機能ともに、「因果関係がある」との回答。	情報収集・提供機能は、「因果関係がある」との回答。 プロジェクトの実施に当たり、日本人専門家と、より頻繁に企業訪問を行いたかった。
2.2	プロジェクト目標の達成を阻害する要因、または促進要因はありますか?	●促進要因として、マレーシア社会全体でタバコの問題を取り上げるようになった。●阻害要因として、C/P の退職。	●DOSH や Ministry のコミットメントがたくさん得られた。●産業会からも NIOSH の活動に対する参加が多く		なし	N.A.	なし

		日本人専門家(4名)	NIOSH 所長	職業保健(医師)	Dr,Azul Occupational Helath 課長	産業保健 Mr. Uzaini (Occupational Health)	Mr. Hanif (Occupational Health)
			あった。				
3.1	①投入(イ.日本人専門家、ロ.C/P 日本研修、ハ.機材供与、ニ.現地活動経費)は活動に効率的に活用されていますか。 マレーシア側投入(①土地、建物、設備、②C/P の配置、②プロジェクトの運営経費)は活動に効率的に活用されていますか。	全員が、効率的に活用されていると回答。	日本、マ国側ともに、効率的に活用された。(但し、NIOSH が活用する Sample の数は、産業界の Demand による。すなわち、Awareness と Enforcement が必要。)	活用されているが効率的ではない。(Nerve Condition Velocity, Balance & Mobility は、とても進んだものであり、極めて特別なケースのみに使用される。)	極めて効率的に活用された。 機材供与はどれも実践的で役に立っている。	効率的に活用されたが改善の余地はある。 (機材について、P58 の No.3、Reaction Time Tester については、使い方が分らないので、使われていない。No.2、Electromyography and evoked Potential は、彼一人しか使い方が分らないので、使用頻度が低い。(年 30-40 回程度)Dr. Mohazan Haron,の退職以降、彼は、Mental Health も担当した。関連質問票はコンピューターの紛失により紛失した。	極めて効率的に活用された。 機材供与はどれも実践的で役に立っている。
3.2	達成された成果から見て、投入の質、量、タイミングは適切でしたか。(1) 日本側(質、量、タイミング) (2) マレーシア側(質、量、タイミング)	改善点ありと指摘されたのは、●産業保健の分野では、機材供与の質(プロジェクトの前半は機材供与が研究分野に重点を置きすぎたのではないか)と C/P の退職の問題。●産業衛生の分野では、機材供与のタイミング(短期専門家が帰国間際に携行機が到着する機材もあった)であった。	すべて、極めて適切だった。(ただし、マ側のカウンターパートについては、通常の業務があり、技術移転を受けることに 100%注力できなかった点は懸念される。	機材は極めて適切である 日本人専門家は適切である。Dr. Hisanaga はとても経験が豊富で、よい長期専門家であった。 マレーシア側は、すべて極めて適切と回答。	極めて効率的に活用された。 機材は、マレーシア側のニーズに基づいたものが選定されている。	日本側:適切。ただし以下の点は改善ありとされた。ただし、STE についてはタイミングについて改善の余地があったと考える。 マ側; 適当	STE の派遣期間が短すぎる。研究を C/P と一緒にすべきである。 供与機材は日本製が多く、メンテ費用がかかる。
3.3	本事業のアウトプット達成において、他の類似プロジェクトの実施により、プラスの効果が見られましたか。または、実際は類似プロジェクトはなかったが、もしそれがあれば、よりプロジェクトのアウトプットの達成度合いが高まったであろうものがあればお教えください。	労働安全衛生法の施行は行政が行っている。行政機能の充実が必要。	特に、類似プロジェクトを NIOSH で実施しているドナーは存在しない。UNDP が DOSH を対象に事業を実施していたが、既に終了している。主に、Information System の充実に関する支援である。これらは、規模も小さく、突発的な支援だった。	N. A.	N.A.	N.A	N.A.

		日本人専門家(4名)	NIOSH 所長	職業保健 (医師)	Dr,Azul Occupational Helath 課長	産業保健 Mr. Uzaini (Occupational Health)	Mr. Hanif (Occupational Health)
4.1	上位目標について ①プロジェクトの終了後に「マレーシアにおける労働災害及び職業病が減少する。」という上位目標の達成の見込みはありますか。	4名とも「達成見込み 80%以上」と回答しているが、それがプロジェクトの結果といえるかどうかについては、どちらともいえないという回答。●NIOSH はプロジェクトの実施は、減少要因のひとつと思うが、他の関与も多い。	上位目標の達成について、多様な要素があるので、なんともいえない。SOCSO の Data は、DOSH の Data よりも正確であろう。SOCSO に対しては労災補償を得るため報告するが、DOSH に対しては、罰金が科されるかもしれない不安から報告しないケースも多い。不法労働者の事故数は、いずれも把握しきれていない。	達成度合いは、50%以上。 その達成は、当プロジェクトによるものであるかは、何ともいえない、と回答。 また、より多くの企業において、意識が向上されたと思うが、中小企業はあまり対策を実施できない等問題もある。	達成度合いは、50%以上と考える。 職業病については、Awareness の度合いとの関連がある。労働災害に比べて、職業病の率の低下にはより時間を要する。	達成度合いは、50%以上と考える。	達成度合いは、50%以上と考える。
4.2	上位目標の達成に影響を及ぼす要因(国家政策変更等)はありますか。それは何ですか。具体的にご記入ください。	●①事業者の順法意識、②職場の自動化の進捗度、③労働組合の勢力、④産業構成、⑤総労働時間、⑥民事賠償による命の値段、⑦総労働者数、⑧景気に左右される安全投資、⑨安全衛生向上に資する技術レベル、⑩運、等に加え、行政執行能力が挙げられる。●マレーシアの経済状況、外国人労働者の問題、交通災害の増加(通勤災害は労災)、DOSH の人的不足、国の Health Promotion 活動が低い。(国民性か?)	政府の政策が変わることはないと思う。	N. A.	N.A	ｽﾀｯﾌの退職.	N.A
4.3	その他プロジェクトの実施による、プラス・マイナスのインパクトはありますか。または、将来、発現する見込みはありますか?	<u>現在発現</u> ●政策・制度的(新規 DOSH プロジェクトが検討されている。)技術的(最新の知識、技術の獲得は有効、大学からの参加者もあり。) その他(日本・マ国の友好関係の増進)●政策・制度的インパクト(DOSH が禁煙活動に関するガイドラインを出し、NIOSH が測定、ヘルスプロモーションの役割を担っている。) <u>将来発現・どちらともいえない。</u> ●社会的・文化的(労働安全	ネガティブなインパクトはひとつもないだろう。	政策・制度的インパクトおよび、技術的なインパクトは既に発現していると言えよう。 日本に対するイメージが向上した。	ポジティブなインパクトがみられる。	N.A.	ポジティブなインパクトがみられる。

		日本人専門家（4名）	NIOSH 所長	職業保健（医師）	Dr,Azul Occupational Helath 課長	産業保健 Mr. Uzaini（Occupational Health）	Mr. Hanif（Occupational Health）
		衛生に関する一般の関心度合いが高まると思うが不明）					
5.1	プロジェクト目標達成によるプロジェクトの効果は、プロジェクト終了後も維持される見込みはありますか。	3名が、80%以上、プロジェクトの効果が維持される見込みありと回答。（DOSH の法令により、NIOSH 事業は不可欠であるため、企業が NIOSH を使用するので技術レベルが低下することはない。1名（産業衛生）は、見込み 50%以上と回答。（NIOSH ｽﾀｯﾌの知識・スキルを踏まえると、維持される見込みは 70%程度と考える。）	80%達成される見込みあり。（NIOSH の能力向上が今後も活かされるかは、産業界のニーズに係っている。Awareness と Enforcement が十分行なわれる必要がある。）	50%以上達成される見込みあり。（産業に対して OSH の重要性を教え込むには時間がかかる。）	80%達成される見込みあり。	80%達成される見込みあり。	80%達成される見込みあり。
5.2	政策、制度的側面から、今後もマレーシア政府の政策の一環としてプロジェクトの効果が、維持・発展されていくと考えますか。	4名とも維持発展されていくと回答。労働災害の減少は DOSH の重要政策のひとつであり、マレーシア政府の政策、制度的側面からも十分に維持・発展されると考えられる。	政府は 2020 年までに先進国入りすることを目標にしており、継続して様々な法律が出来る見込みである。In door Air Pollution に関するガイドラインも、出来たところである。	維持されるだろう。（より多くの OSHニーズに対応した技術が強化されるべき。例えば、多くの産業において共通の「皮膚病」については本プロジェクトの支援対象ではなかった。	維持・発展していくだろう。	維持していくだろう。	維持・発展していくだろう。
5.3	NIOSH の組織面（人材配置、意思決定プロセス、マレーシア政府のオーナーシップ）から判断し、プロジェクトの効果が、維持・発展されていくと考えますか。	リーダー・調整員は、維持・発展されていくと回答。（過去順調に運営されてきた組織であり、今後も同様に進むものと予測する。）産業衛生専門家および、職業保健専門家は維持されていくと回答。（人材について、転職が多く発生すれば、技術の2次移転に時間がかかると思われる、層はまだ薄い。）	第 9 次計画の中でも、NISOH の 5 支社の New Building に関する予算割り当てが、行われる見込みであることから、発展が期待される。	維持・発展していくだろう。	維持・発展していくだろう。	維持していくだろう。	維持していくだろう。
5.4	NIOSH の財務面（独立行政法人として、経常経費を含む資金面の確保の継続性）から判断し、プロジェクトの効果が、維持・発展されていくと考えますか。	3名が維持・発展されていくと回答。（セミナーやコンサルの増加が認められる。また、「現在のところ NIOSH に競合するような相手が居ない点」が挙げられている。） 1名は、維持されていくと回答。	Income が増加している。	維持されるだろう。NIOSH は Government Linked Company であり、Self -Financed なので、外部の支援なしに、技術能力向上を行うのは難しい。	維持・発展していくだろう。	維持していくだろう。	維持・発展していくだろう。
5.5	NIOSH の技術面	1名（産業衛生）が維持・発展	維持・発展されていくだろう。	維持・発展していくだろう。	維持・発展していくだろう。	維持していくだろう。	維持・発展して

		日本人専門家(4名)	NIOSH 所長	職業保健 (医師)	Dr,Azul Occupational Helath 課長	産業保健 Mr. Uzaini (Occupational Health)	Mr. Hanif (Occupational Health)
	(①供与機材の維持管理能力、②技術の NIOSH 内での定着、普及能力)から判断し、プロジェクトの効果が、維持・発展されていくと考えますか。	されていくと回答。(スタッフは勉強熱心な者が多く、供与された分析機器も最新鋭のものが揃っており、維持・発展が期待される。 3 名が維持されていくと回答。(●実際に機材を用いる技術者と、メインテナンスを行うものが異なることが懸念材料。技術者が機材をメンテする(日本風)のが望ましい。●現在の C/P が退職した場合に、懸念がある。技術が個人にとどまり、他に伝播しにくい。)		本人は、大学との連携を積極的に行っている。(USM：University of Malaysia, DOSH, Ministry of Health と以下調査、"National Occupational Asthma Risk Management Study"を実施している。			いくだろう。
5.6	その他、プロジェクトの効果の持続性に影響を及ぼす要因はありますか。具体的にご記入ください。	●スタッフの転職、マレーシアにおける対日感情の悪化。	C/P がマレーシアを離れると困る。1 年間は辞められないような制度を確立した。また、業務従事環境を改善する、コンサルサービスを実施したら、利益を職員間で配分できるような、仕組みを取り入れている。		—	N.A.	—
その他				●NISOH は、インドネシア、タイ、ラオス等の東南アジア諸国に対しての訓練機関として機能することが可能である。	マレーシアの OSH の向上のために有効であった。	NIOSH の機能強化及びマレーシアにおける OSH の強化に非常に役立った。	プロジェクトの延長を希望する。

PART1：プロセスの把握のための質問

		産業衛生課長（2000年に当課設立。1999年にC/P研修に参加した。）	産業衛生（スタッフA）（モニタリング、最近分析）	産業衛生（スタッフB局所排気）	産業衛生スタッフC 騒音、分析等（Chemical Officer）	産業衛生スタッフD	産業衛生スタッフE, F（Biological Monitoring & Technician）
1.	プロジェクトのモニタリング(進捗管理)はどのように行われていますか。 ① 中間評価以降の合同調整委員会（Joint Coordinating Committee）（年二回実施予定）	定期的に開催された。	定期的に開催された。	N.A.	ほぼ定期的開催された。	N.A.	
	② 運営委員会（Steering Committee）（毎月１回実施予定）	定期的に開催された。	定期的に開催された。	定期的に開催された。	定期的に開催された。	N.A.	
	③ 中間評価以降モニタリングの結果は事業の改善等に活かされましたか。	はい。	はい。	N.A.	N.A.	N.A.	いずれも良好
2	NIOSH の運営に関する意志決定メカニズムは、プロジェクト目標の達成のために十分な権限を持ち、機能していますか？（活動内容、組織体制、資金計画）	N.A	はい。	N.A.	N.A.	N.A.	いずれも良好
3	日本人専門家（長期・短期）とカウンターパートおよび NIOSH スタッフとのコミュニケーションは適切に行われていますか。	日常的にも良好。（短期専門家も帰国後も連絡を取っている。）	いずれも良好	いずれも良好	いずれも良好	いずれも良好	いずれも良好
4	マレーシア側のオーナーシップは確立されましたか。 ① DOSH による NIOSH 運営の支援、	DOSH が企業を訪問し、対策の必要ありとされた企業が、NIOSH に連絡を取る。DOSH との連携は取れている。Project Report P16 には、事業所の作業環境測定を実施した企業の数があるが、コンサルサービスに結びつかなかったものも含めれば,この数の 3 倍くらいの数は訪問している。2000 年に科学物質に関する法律が施行され、それ以降、排気測定の需要が高まっている。		いずれも良好。	いずれも良好	いずれも良好。	N.A
	② C/P 配置の適正度	適切。 NIOSH では、４つの Competency Training を実施している。これらのコースを受講した人の多くが DOSH に資格登録をしている。これらのトレーニングに対するニーズは、法規制の整備とともに増えることが見込まれる。従って、NIOSH 職員が研修の実施に割く時間は多い。課長自ら、局所排気に関するトレーニングの講師を	自分の専門は、Bio-Medical であったが、C／P研修には早い時点（2002年２月～4月）で参加し、Occupational Health（Organic Solvent）について学んだ。その後NIOAHでは、分析ではなく、モニタリング業務に従事した。最近。分析の仕事に戻ったため、古い記憶を呼び戻している。Mr.Sulaiman がこの 7 月に辞めたばかりなので、代わりに分析をすることになった。		いずれも良好 現在 8 件のプロジェクトを担当。年間、200時間程度講義を実施している。 2005 年に、Code of Practice: Indoor Air Pollution が出てから、騒音測定の需要も急増している。	いずれも良好。	N.A.

		産業衛生課長 (2000年に当課設立。1999年にC/P研修に参加した。)	産業衛生(スタッフA) (モニタリング、最近分析)	産業衛生 (スタッフB 局所排気)	産業衛生スタッフC 騒音、分析等 (Chemical Officer)	産業衛生 スタッフD	産業衛生スタッフE, F (Biological Monitoring & Technician)
		実施している。	また、Chemical Officer も C/P 研修帰国後 6 ヶ月程度で退職した。 C/P の質については、どちらともいえないと回答あり。 プロジェクトの開始時は、NIOSH スタッフは収益を上げることに注力せずすんだので、比較的時間があったため、日本人とも緊密な連携が取られた。ここ数年は C/P も収益を上げるために多忙である。また、日本人専門家もいろいろな JICA 事務で多忙な様子だ。				
	③ プロジェクトにより向上した NIOSH の能力強化について,マレーシア政府は積極的に活用する方策をとりましたか？または今後、計画がありますか？	マレーシア側はより自信を持って、サービスを提供できるようになる。	N.A.		③政府は今後も引き続き、職場におけるリスク管理を積極的に実施するように働きかけると思われる。また、その時に、JICA の提供した分析機器が活かされると考える。	いずれも良好。	
5.	プロジェクトの実施プロセス(プロジェクト内およびプロジェクト外)において特筆すべき事項(工夫されている点、今後の改善点等)	特に、短期専門家の来訪時には、スタッフが講習へ参加するように指導した。具体的には、10 名のスタッフのうち、2 名は、全部の講義に参加できるように指名した。 また、C/P 研修参加者を中心に、Technical Talks を実施してもらい、他の C/P への技術移転を図った。ただし、これは 1、2 時間の限られた時間であり、すべての技術移転ができるわけではない。日常業務の中で技術移転をしていくことの必要性を感じている。		N.A.	N.A.	N.A.	

PART 2:5 項目評価のための質問

		産業衛生課長（2000年に当課設立。1999年にC/P 研修に参加した。）	産業衛生（スタッフA）（モニタリング、最近分析）	産業衛生（スタッフB 局所排気）	産業衛生スタッフC 騒音、分析等（Chemical Officer）	産業衛生スタッフD	産業衛生スタッフE, F（Biological Monitoring & Technician）
1.1	プロジェクト目標「NIOSH の機能（技術支援、人材開発、情報収集と提供）が向上する。」はマレーシアの産業界のニーズに合致していると考えますか？	極めて妥当。	ほぼ妥当。基本的に、技術は日本もマレーシアも同様であるが、手続きや、基準については、必ずしも同一ではない。	極めて妥当。	極めて妥当。	極めて妥当。	極めて妥当。
1.2	NIOSH の活動およびプロジェクトの移転技術内容と、DOSH の規則・ガイドライン等とは整合していますか。	ほぼ妥当。（日本の Chemical Exposure Monitoring Methodology は、DOSH のガイドラインや、マレーシアの法律には規定されていない。つまり、基準は違うが、科学技術の知識という意味では妥当。）	ほぼ妥当。DOSH の規則（USECHH 2000）は、化学物質の管理において、人側に立った保護（Personal exposure ）に重点が置かれているが、日本は Area Exposure に重点が置かれている。	極めて妥当。	ほぼ妥当。（方法や、法体系が違うが、技術は同じ）	極めて妥当。	極めて妥当。
1.3	本プロジェクトのターゲットグループを NIOSH の職員としたことは、上位目標の達成のために妥当であると考えますか。（NIOSH の機能強化が、マレーシアの労働安全衛生機能向上に繋がるかどうかの観点等から）	極めて妥当。	極めて妥当。	極めて妥当。	極めて妥当。	極めて妥当。	極めて妥当。
1.4	本プロジェクトの計画・アプローチは妥当であったと考えますか。	プロジェクトの 1 年目に、有機溶剤、2 年目に騒音・振動、とテーマを絞って行ったのは適切であった。短期専門家の来訪と、C/P Training の実施は、とても有効であった。また、中間評価における PDM の見直しが十分に実施されたので評価できる。	極めて妥当。	極めて妥当。 C/P 研修は個別研修であったが、事前に自分の意向に合わせて講座が組まれたため、とても満足している。 （日本では、ここで学ぶことよりさらに進んだことを学んだ。Design について学んだ。）	妥当。（ミスコミュニケーションが多少はあったが、大きな問題ではない。）	極めて妥当。 C/P 研修で、Outdoor Activities のリスクを学んだが、これは NIOSH では新しい分野である。	極めて妥当。
1.5	日本の技術を NIOSH に移転する比較優位があると考えますか。	極めて妥当。	極めて妥当。	極めて妥当。	極めて妥当。	極めて妥当。	妥当

		産業衛生課長 （2000年に部署が設立された、1999年にC/P研修に参加した。）	産業衛生（スタッフA） （モニタリング、最近分析）	産業衛生 （スタッフB 局所排気）	産業衛生スタッフC 騒音、分析等(Chemical Officer)	産業衛生 スタッフD	産業衛生スタッフE, F （Biological Monitoring　&　Technician）
2.1	プロジェクト目標について ① プロジェクトの実施に携わる関係者間で、プロジェクト目標「NIOSHの機能（技術支援、人材開発、情報収集と提供）が向上する」についての明確な認識が共有されていますか。	明確な共通認識があった。	明確な共通認識があった。	明確な共通認識があった。	明確な共通認識があった。	明確な共通認識があった。	共通認識があった。
	② プロジェクト目標の達成度合い(プロジェクト終了時までの見込み)をどのように考えますか？	技術、人材開発面では「十分に達成する」と回答。情報収集・提供については、「達成見込みが高い。」（ここのｽﾀｯﾌは若く現在まだ学んでいる過程であるから。）また、日本のことを知りたくても、材料が英語でないので、残念であったとのこと。Handbook については、より多くの数が作成できたらよかったとのコメントあり。	いずれの面においても、「達成見込みが高い。」と回答。	いずれの面においても、「達成見込みが高い。」と回答。	技術面は、非常に向上した。 それ以外は「達成見込みが高い。」と回答。	いずれの面においても、「達成見込みが高い。」と回答。	産業衛生の分野に関して、いずれの面においても、「十分達成する」との回答。情報収集機能については、「達成見込みが高い。」と回答。
	③ プロジェクトのアウトプットの達成とプロジェクト目標達成との間に十分な因果関係がありましたか。	技術、人材開発、情報収集・提供機能ともに、「因果関係が十分ある」との回答。 研究開発については、有機溶剤のデータを取ったが（7つの企業）、それに分析を加えた論文執筆までには至らなかったのは残念である。研究に割ける時間がなかった。 NIOSHとしては、今年から各課２つのテーマについて研究を進めることになっている。当課では、① Metal Exposure と② Indoor-Air Quality について取り組む予定。	技術、人材開発、情報収集・提供機能ともに、「因果関係がある」との回答。 具体的には、 技術面 コンサルサービスやモニタリング、講義の実施に活かされている。 人材育成面 分析により重点をおいた講座が今後必要。	技術、人材開発、情報収集・提供機能ともに、「因果関係が十分ある」との回答。 具体的には、 多くのカウンターパートが自分の分野の技術を学び、彼らの理解度と経験を深めた。	技術、人材開発、情報収集・提供機能ともに、「因果関係が十分ある」との回答。 技術支援 コンサルサービスを強化した。 人材育成面 ｽﾀｯﾌはこの分野では新しいが、プロジェクトを通じて知識を得た。 情報収集、提供 Organic Solvent のハンドブックも有益であった。	③技術、人材開発、情報収集・提供機能ともに、「因果関係が十分ある」との回答。	技術、人材開発、情報収集・提供機能ともに、「因果関係がある」との回答。 彼女は、Iron クロマトグラフィーや、X-Ray Diffract Meter について学んだが、NIOSH では、この扱いを知っているのは自分だけである。今まで、理解度はまだ、100%とはいえないが、50%でも学んだことの効果は大きい。 また、NIOSH は、スタッフを海外研修に派遣する余裕はないと思うが、JICAのおかげで行くことが出来た。それらを通じて、顧客へのサービスを向上できる。
2.2	プロジェクト目標の達成を阻害する要因、または促進要因はありますか？	NIOSH のｽﾀｯﾌの退職は、NIOSH の活動に影響は及ぼすであろうが、国全体で見たら問題ない。	N.A.		N.A.	N.A.	NIOSH ｽﾀｯﾌと JICA とが協力したことが、よりプロジェクトの成果の達成に繋がった。

		産業衛生課長 (2000年に部署が設立された、1999年にC/P研修に参加した。)	産業衛生(スタッフA) (モニタリング、最近分析)	産業衛生 (スタッフB 局所排気)	産業衛生スタッフC 騒音、分析等(Chemical Officer)	産業衛生 スタッフD	産業衛生スタッフE, F (Biological Monitoring & Technician)
3.1	①投入(イ.日本人専門家、ロ.C/P 日本研修、ハ.機材供与、ニ.現地活動経費)は活動に効率的に活用されていますか。 マレーシア側投入(①土地、建物、設備、②C/P の配置、②プロジェクトの運営経費)は活動に効率的に活用されていますか。	極めて効率的に活用された。	極めて効率的に活用された。	極めて効率的に活用された。	極めて効率的に活用された。 機材供与はどれも実践的で役に立っている。	日本側 適切に活用された。 (機材について、彼女は P50 の No.1 HLPC を扱っている。NO.14、NO15 の Gas chromatography は非常に有益である。)	極めて効率的に活用された。 (Technicianコメント：3つのコースに参加したのみであるが、機材、技術について学べて大変良かった。ただし、多少言葉の面での苦労もあった)
3.2	達成された成果から見て、投入の質、量、タイミングは適切でしたか。(1) 日本側(質、量、タイミング) (2) マレーシア側(質、量、タイミング)	C/P 研修の量がもっと欲しかったとのこと。それ以外は極めて適当と回答。資機材の活用度合いは、スタッフが取得した能力により活用度合いが異なる。現在は、100%のレベルで活用できているとは言い難いが、将来的には 100%活用されるだろう。また活用度は産業界の Demand による。	日本側：極めて適切。ただし以下の点は改善ありとされた。 「C/P 研修については、言語および文化の壁があった」 「もし C/P が 100%出席できるなら、短期専門家の派遣期間は2週間でよいが、現状を考慮すると短すぎる。」	極めて適切に活用された。 LEV(局所排気)については、極めて高い頻度で使われている。この扱いが可能なのは、本人と、課長のみ。	極めて効率的に活用された。 機材は、マレーシア側のニーズに基づいたものが選定されている。	適切に活用された。	極めて効率的に活用された。
3.3	本事業のアウトプット達成において、他の類似プロジェクトの実施により、プラスの効果が見られましたか。または、実際は類似プロジェクトはなかったが、もしそれがあれば、よりプロジェクトのアウトプットの達成度合いが高まったであろうものがあればお教えください。	N.A.	Environmental Monitoring に関する研修を実施して欲しかった。	N.A.	N.A.	N.A.	N.A.
4.	4.1 上位目標について ① プロジェクトの終了後に「マレーシアにおける労働災害及び職業病が減少	インパクトは、判断が難しい。日本から足がかりを得た。今後、拡大していく必要があると考えている。NIOSH には、先進機材が整っており、他の機関が提供できないものをこ	「達成見込み 80%以上」またその達成は、当プロジェクトによるものであろ	達成度合いは、50%以上と考える。 その達成は、当プロジェクトによるものであろうと	達成度合いは、50%以上と考える。	達成度合いは、80%以上と考える。	達成度合いは、50%以上と考える。

		産業衛生課長 (2000 年に部署が設立された、1999 年にC/P 研修に参加した。)	産業衛生(スタッフA) (モニタリング、最近分析)	産業衛生 (スタッフB 局所排気)	産業衛生スタッフC 騒音、分析等(Chemical Officer)	産業衛生 スタッフD	産業衛生スタッフE, F (Biological Monitoring & Technician)
	する。」という上位目標の達成の見込みはありますか。	こが提供すべきと考える。	うと回答。	回答。その理由は、技術移転の内容を事業者に、トレーニングやコンサルテーションを通じて、伝播することが出来るから。			
4.2	上位目標の達成に影響を及ぼす要因(国家政策変更等)はありますか。それは何ですか。 具体的にご記入ください。	N.A.	N.A.	N.A.	N.A.	N. A.	N.A.
4.3	その他プロジェクトの実施による、プラス・マイナスのインパクトはありますか。または、将来、発現する見込みはありますか？	N.A	政策・制度的インパクトおよび、技術的なインパクトは既に発現していると言えよう。文化的・社会的インパクトは発現すると思われる。	いずれも将来発現するだろう。	N.A.	プラスのインパクトが見られるだろう。	N.A.
5.1	プロジェクト目標達成によるプロジェクトの効果は、プロジェクト終了後も維持される見込みはありますか。	80%達成される見込みあり。	80%達成される見込みあり。	50%以上達成される見込みあり。 (C/Pの多くが技術を身に着けたが、機材を十分に使えない者もいるため。)	N.A.	50%以上達成される見込みあり。	50%以上達成される見込みあり。
5.2	政策、制度的側面から、今後もマレーシア政府の政策の一環としてプロジェクトの効果が、維持・発展されていくと考えますか。	維持・発展していくだろう。	維持・発展していくだろう。	維持されるだろう。	維持されるだろう。(DOSH は、LAB をもっていないので、引き続き、NIOSH の果たす役割は大きい。) また、DOSH に登録すべき資格受講のためのコースを NISOH が提供、筆記試験を実施し、DOSH が面接試験を行う。	維持・発展されるだろう。	維持・発展していくだろう。
5.3	NIOSH の組織面(人材配置、意思決定プロセス、マレーシア政府のオーナーシッ	維持・発展していくだろう。	維持・発展していくだろう。	維持されるだろう。		維持・発展されるだろう。	維持・発展していくだろう。

		産業衛生課長 (2000 年に部署が設立された、1999 年にC/P 研修に参加した。)	産業衛生(スタッフA) (モニタリング、最近分析)	産業衛生 (スタッフB 局所排気)	産業衛生スタッフC 騒音、分析等(Chemical Officer)	産業衛生 スタッフD	産業衛生スタッフE, F (Biological Monitoring & Technician)
	ブ)から判断し、プロジェクトの効果が、維持・発展されていくと考えますか。						
5.4	NIOSH の財務面(独立行政法人として、経常経費を含む資金面の確保の継続性)から判断し、プロジェクトの効果が、維持・発展されていくと考えますか。	維持・発展していくだろう。	維持・発展していくだろう。	維持されるだろう。		維持・発展されるだろう。	N.A
5.5	NIOSH の技術面(①供与機材の維持管理能力、②技術の NIOSH 内での定着、普及能力)から判断し、プロジェクトの効果が、維持・発展されていくと考えますか。	維持・発展していくだろう。 現在も、大学等と協力している。このようにして、マレーシアの OSH を今後も向上させていくだろう。	維持・発展していくだろう。	維持されるだろう。	Mr. Hamiraj が辞めたので、機材のいくつかは、サンプルを扱えないものがある。従って、サンプルの入手を止めている。(SOP は今整備中であるので、SOP の整備がひとつの解決策かもしれない。)機械の正確なメンテ、正確性の確保の重要性、	維持・発展されるだろう。	維持・発展していくだろう。
5.6	その他、プロジェクトの効果の持続性に影響を及ぼす要因はありますか。具体的にご記入ください。	C/P の退職。	N.A.	技術移転を受けた C/P がとどまる限りは、供与された機材も使用されるし、訓練も行われていくだろう	N.A.	技術移転を受けたC/Pがとどまる限りは、供与された機材も使用されるし、訓練も行われていくだろう	N.A
その他		当プロジェクトはもっと、OSH 分野における研究分野を支援して欲しかった。	化学分析が出来るスタッフが退職したため、この 9 月からサンプルの受付を中止している。				JICA のプロジェクトがまだ存続して欲しい。

PART1：プロセスの把握のための質問

		人間工学 課長＋スタッフJ （課長：2005年4月NIOSHに入社したばかり。）	Information Service 課長	産業安全課 スタッフK Noise Control の分野で、産業衛生分野との重複があるため、C/P 研修に参加した。Safety Division は JICA の機材供与は受けていない。しかし、当部署では、必要に応じて、Hygiene より機材を借りている。	人間工学課 スタッフL 集団研修と、その後の2週間延長して個別研修を受けた。	人間工学課 スタッフM
1.	プロジェクトのモニタリング(進捗管理)はどのように行われていますか。 ① 中間評価以降の合同調整委員会(Joint Coordinating Committee)（年二回実施予定）	定期的に開催された。	定期的に開催された。			
	② 運営委員会（Steering Committee)（毎月1回実施予定）	定期的に開催された。	ほぼ定期的に開催された。（内容は、他の技術課 に焦点がおかれたので、当課の関連は少なかった。）			
	③ 中間評価以降モニタリングの結果は事業の改善等に活かされましたか。	はい。	当課は、資機材の提供のみ受けており、長期専門家からの技術移転は特に受けていない。一人、日本に研修に行ったが（OSH Training using IT and AV Technology）、辞職した。技術はスタッフ（2002 年半ばから着任）に引き継がれている。			
2	NIOSH の運営に関する意志決定メカニズムは、プロジェクト目標の達成のために十分な権限を持ち、機能していますか？ （活動内容、組織体制、資金計画）	はい。	はい。			
3	日本人専門家（長期・短期）とカウンターパートおよび NIOSH スタッフとのコミュニケーションは適切に行われていますか。	いずれも良好	いずれも良好	いずれも良好（毎週、木曜日日本語コースをプロジェクト専門家（調整員）が実施しており、それにも参加した＊） ＊終了時評価時点では行っていないとのこと。 マレーシア側の対応が遅いこともあった。	いずれも良好	いずれも良好
4	マレーシア側のオーナーシップは確立されましたか。 ① DOSH による NIOSH 運営の	いずれも良好。	いずれも良好	なんともいえない。	いずれも良好	いずれも良好。

		人間工学 課長＋スタッフJ	Information Service 課長	産業安全課 スタッフK	人間工学課 スタッフL	人間工学課 スタッフM
	支援					
	② C/P 配置の適正度	人間工学課の課長は、2002 年 9 月ごろに、個人でコンサルタントを開始するために退職したが、それ以来課長不在が続いていた。短期専門家が来たときには、最低一人は全講義に参加するように配置した。	いずれも良好	いずれも良好	いずれも良好 Dr. Jalaludin（課長）は、退職して、個人でコンサルサービスを開始した。このように、この分野では競合相手はいる。	いずれも良好 NIOSH の人員配置、昇進の仕組みが、技術スタッフにメリットのある仕組みになっていないのが、C/P の退職の多さに繋がっていると思う。
	③ プロジェクトにより向上した NIOSH の能力強化について,マレーシア政府は積極的に活用する方策をとりましたか？または今後、計画がありますか？	N.A	毎週金曜日に技術的な問題解決のための、ミーティングをもって、技術をシェアした。		また、C/P の能力が必ずしも時も高いとはいえなかったと思う。	N.A
5.	プロジェクトの実施プロセス（プロジェクト内およびプロジェクト外）において特筆すべき事項（工夫されている点、今後の改善点等）	中間評価前に、短期専門家の派遣期間が短すぎることが挙げられたが、その後は比較的改善された。	N.A.	日本人専門家について、マレーシアの産業に関する知識を更に有する専門家が来てくれるとよい。（例、ソニー、シャープ等での勤務経験者等）	C/P 研修帰国後は、技術移転のためのトレーニングを行った。合計7つのテーマについてそれぞれ 2-3 時間費やした。	N.A.

PART 2:5 項目評価のための質問

		人間工学 課長＋スタッフ J	Information Service 課長	産業安全課 スタッフ K	人間工学課 スタッフ L	人間工学課 スタッフ M
1.1	プロジェクト目標「NIOSH の機能（技術支援、人材開発、情報収集と提供）が向上する。」はマレーシアの産業界のニーズに合致していると考えますか？	極めて妥当。	極めて妥当。	極めて妥当。	ほぼ妥当。 （Ergonomics は、マレーシアにおいては新しい技術分野であり、自分たちが何を知らないか分らない分野である。Design の方法等について、全体像の 70%から 80%程度理解したつもりである。）	極めて妥当。
1.2	NIOSH の活動およびプロジェクトの移転技術内容と、DOSH の規則・ガイドライン等とは整合していますか。	極めて妥当。	極めて妥当。	極めて妥当。 （多少、測定基準：Permissible Exposure Limit が違う）	ほぼ妥当。 （Ergonomics は、まだ国の法律がない分野なので）	極めて妥当。
1.3	本プロジェクトのターゲットグループを NIOSH の職員としたことは、上位目標の達成のために妥当であると考えますか。（NIOSH の機能強化が、マレーシアの労働安全衛生機能向上に繋がるかどうかの観点等から）	極めて妥当。	極めて妥当。	妥当。 （今回の JICA 支援には、産業産業安全課が含まれていなかった。Engineering / technical な面での安全向上の支援もして欲しいかった。	極めて妥当。	極めて妥当。
1.4	本プロジェクトの計画・アプローチは妥当であったと考えますか。	極めて妥当。	極めて妥当。	妥当。 （Safety に関する支援はなかったが。）	妥当。	極めて妥当。
1.5	日本の技術を NIOSH に移転する比較優位があると考えますか。	極めて妥当。	極めて妥当。	極めて妥当。	妥当。移転技術は、中小企業（SME）対象のものであるが、多国籍企業（大企業）へのアプローチの方法を学びたかった。また Total Ergonomic Approach を学びたかった。	極めて妥当。

		人間工学 課長＋スタッフJ	Information Service 課長	産業安全課 スタッフK	人間工学課 スタッフL	人間工学課 スタッフM
2.1	プロジェクト目標について ① プロジェクトの実施に携わる関係者間で、プロジェクト目標「NIOSH の機能（技術支援、人材開発、情報収集と提供）が向上する」についての明確な認識が共有されていますか。	明確な共通認識があった。	明確な共通認識があった。	共通認識があった。	明確な共通認識があった。	共通認識があった。
	② プロジェクト目標の達成度合い(プロジェクト終了時までの見込み)をどのように考えますか？	いずれの面においても、「十分達成する」との回答。	いずれの面においても、「十分達成する」との回答。	いずれの面においても、「十分達成する」との回答。	いずれも、「達成見込みが高い。」と回答。	いずれの面においても、「達成見込みが高い。」と回答。
	③ プロジェクトのアウトプットの達成とプロジェクト目標達成との間に十分な因果関係がありましたか。	技術、人材開発、情報収集・提供機能ともに、「因果関係が十分ある」との回答。	当課においては、機材供与を受けたのみなので、技術支援においての因果関係は、多少低い。 具体的には、NIOSH の情報収集、普及機能を強化した。（NIOSH の図書館の蔵書の強化。これにより、NIOSH のさまざまな機能が強化された。） 蔵書は、オンラインで管理され、NIOSH 支店に対しても貸し出しされている。	いずれの「因果関係がある」との回答。 具体的には、 技術支援 最新の技術機器、実験器具が安全衛生課に入り、有益であった。 人材育成面 知識を得、自信に繋がった。 情報収集、提供 NIOSH の対顧客イメージ向上に繋がった。「NIOSH は日本の支援を得て、良い機材で分析できる」と顧客に説明できる。	技術、人材開発、情報収集・提供機能ともに、「因果関係が十分ある」との回答。	③技術、情報収集・提供機能ともに、「十分因果関係がある」との回答。 人材開発については、「因果関係ある」と回答。 技術支援 能力の向上に繋がった。
2.2	プロジェクト目標の達成を阻害する要因、または促進要因はありますか？	N.A.	スタッフの退職	スタッフの退職	N.A.	JICA と NIOSH の連携は非常に良かった。
3.1	①投入（イ.日本人専門家、ロ.C/P 日本研修、ハ.機材供与、ニ.現地活動経費）は活動に効率的に活用されていますか。 マレーシア側投入（①土地、建物、設備、②C/P の配置、②プロジェクトの運営経費）は活動に効率的に活用されていますか。	いずれも有効に活用されたとの回答あり。（供与機材を扱い、結果を出せるが、そのデータをどう Implicate し、説明してよいか分らないものがある。更に多くの時間をかけて短期専門家から勉強したかった。）	極めて効率的に活用された。	活用されているが改善の余地がある。 （Noise engineering が、このプロジェクトのスコープには入らなかった。） PPE のハンドブックは非常に有益であったが、工場労働者にはマレー語も読めない外国人がおるので、写真が更に多いと良い。	活用されているが改善の余地がある。 機材について P67 の Equipment to examine optical function については、あまり需要がないため、使われていない。 また、当分野の法律はないために、Ergonomics を取り入れようとする事業者がまだ少ない。	活用されているが改善の余地がある。 機材は、コンサルテーションにおいて使用されるが、産業の多くの人は、作業環境の人間工学的測定に関して、あまり興味がない。 P67 の Equipment to examine optical function は、重く、コンサルテーションで持ち出して使用

		人間工学 課長＋スタッフJ	Information Service 課長	産業安全課 スタッフK	人間工学課 スタッフL	人間工学課 スタッフM
						するには適切でない。
3.2	達成された成果から見て、投入の質、量、タイミングは適切でしたか。(1) 日本側(質、量、タイミング) (2) マレーシア側(質、量、タイミング)	いずれも適切との回答。C/P 研修の参加者数が更に多いとよかったとの要望があり。(2ヶ月では短い、6ヶ月くらい必要) ●供与機材の質には極めて良いとの評価。 ●人間工学の分野において作成したハンドブックは、ILO の分厚いハンドブックに比べて非常に分りやすく簡潔である。	極めて効率的に活用された。機材供与はいずれも効率的に活用されている。特に、ジュークボックスにも、合計 30 程度の VCD 等を確保でき NIOSH 内の LAN で支店からもアクセスできるので、大変有効である。	Safety Division に対する支援がなかった。 (Safety Division から C/P 研修に参加できたのは、彼だけである。) Mr. Azali は、Ergonomics の集団研修に行った。)	中間評価以前は、日本人専門家とのコミュニケーションが言葉の問題でうまく行かないことがあったが、現在は解消されている。 C/P トレーニングの数が十分でない。(まだ全ての技術者は行っていない。)	日本での研修については、集団研修だったが、個別研修がよかった。日本の工場における取り組みをもっと見てみたかった。
3.3	本事業のアウトプット達成において、他の類似プロジェクトの実施により、プラスの効果が見られましたか。または、実際は類似プロジェクトはなかったが、もしそれがあれば、よりプロジェクトのアウトプットの達成度合いが高まったであろうものがあればお教えください。	N.A.	N.A.	N.A.	N.A.	N.A
4.1	上位目標について ①プロジェクトの終了後に「マレーシアにおける労働災害及び職業病が減少する。」という上位目標の達成の見込みはありますか。	達成度合いは、50%以上と考える。 (人間工学は、マレーシアにおいて新しい分野であり、知らない分野がきっと多く存在する。人間工学において、向上の余地はたくさんあるのだろうと思うので。)	他の要因もあるので、なんともいえない。	達成度合いは、50%以上と考える。 NIOSH のスタッフは能力を向上させたので、より質の高いトレーニング、研究開発、コンサルテーション、情報普及が出来る。	達成度合いは、50%以上と考える。	達成度合いは、80%以上と考える。
4.2	上位目標の達成に影響を及ぼす要因(国家政策変更等)はありますか。それは何ですか。 具体的にご記入ください。	N.A.	N.A.	スタッフの退職。 NIOSH の給与体系や昇進体系が良くない。	産業における、 Awareness の向上が重要である。	N.A.
4.3	その他プロジェクトの実施による、プラス・マイナスのインパクトはありますか。または、将来、発現する見込みはありますか？	N.A. (プラスのインパクトが将来発現するだろう。)	社会的、文化的インパクト、技術的インパクトは既に発現していると思われる。	N.A.	なんともいえない。	具術的にプラスのインパクトは既に発現している。
5.1	プロジェクト目標達成によるプロジェクトの効果は、プロジェクト終了後も維持される見込みはありますか。	50%以上達成される見込みあり。(セミナーの開催や、コンサルテーションにより、マ国における事業者の意識が向上していると思われる。)	N.A.	50%以下 C/P の退職	50%以上	80%達成される見込みあり。
5.2	政策、制度的側面から、今後もマレーシア政府の政策の一環としてプロジェ	維持・発展していくだろう。(いくつかの分野はまだ、マ国にとって	維持・発展していくだろう。	維持・発展していくだろう。	維持されるだろう。	維持・発展していくだろう。

		人間工学 課長＋スタッフ J	Information Service 課長	産業安全課 スタッフ K	人間工学課 スタッフ L	人間工学課 スタッフ M
	クトの効果が、維持・発展されていくと考えますか。	は新しい分野である。）				
5.3	NIOSH の組織面（人材配置、意思決定プロセス、マレーシア政府のオーナーシップ）から判断し、プロジェクトの効果が、維持・発展されていくと考えますか。	維持・発展していくだろう。	維持・発展していくだろう。	維持・発展していくだろう。 NIOSH スタッフの能力が強化されたので、外部から NIOSH を見る目も向上した。	維持されるだろう。	維持していくだろう。
5.4	NIOSH の財務面（独立行政法人として、経常経費を含む資金面の確保の継続性）から判断し、プロジェクトの効果が、維持・発展されていくと考えますか。	維持・発展していくだろう。	維持・発展していくだろう。	維持・発展が難しいだろう。 （NIOSH は研究開発機能、スタッフの能力向上を行うために、更なる外部の支援が必要である。	維持されるだろう。	維持・発展していくだろう。
5.5	NIOSH の技術面（①供与機材の維持管理能力、②技術の NIOSH 内での定着、普及能力）から判断し、プロジェクトの効果が、維持・発展されていくと考えますか。	維持・発展していくだろう。 （日本、イギリス、アメリカ等の技術を書籍で学んだり、NIOSH の予算で研修に送ったりしていく予定である。）	維持していくだろう。	維持・発展が難しいだろう。 （技術進歩は著しいので、外部からの更なる支援なくしては、技術の発展は難しいだろう。）	維持されるだろう。 （維持管理費がかかるが、）	維持していくだろう。 （維持管理費がかかるが、）
5.6	その他、プロジェクトの効果の持続性に影響を及ぼす要因はありますか。具体的にご記入ください。	N.A.	維持管理費の捻出が大変であるが、何とか拠出し有効活用するつもりである。	NIOSH の研究開発機能の向上は NIOSH のマレーシア、ひいてはアジアにおける OSH のリーダーとしての知名度を高めるはずである。	N.A.	N.A.
その他		今年度は、人間工学課では、① Vibration と②Eye Strain についての研究予定。 本プロジェクトはマレーシアにと新技術を伝播し、有益であった。引き続き日本によってこの分野の支援が行われることが望まれる。	本プロジェクトは NIOSH にとって、非常に有益であった。技術、日本の状況を学べ、供与機材とともに、NIOSH が自らの Vision と Mission を達成するためにとても有益であった。ぜひ、NIOSH をアジアの中心として他の途上国への技術普及を図りたい。	PPE の Testing Machine がないので、必要性を感じている。	プロジェクトの終了が残念である。 NIOSH は、アジアの中心として、OSH 活動を拡大できると思う。 NIOSH は今後も研究機能とコンサル機能の両方を担っていく必要がある。	5 年間のプロジェクトが終了するので残念である。

各団員所感

橋爪団員（総括）

本プロジェクトについては、予定されていた活動がすべて実施され、所期の成果を出すことができ、プロジェクト目標である「NIOSH の能力強化」は効果的に達成されている。プロジェクトの成果物（紙媒体）や日本側投入（専門家,機材）も効率的に活用され、プロジェクト目標を越え、マレーシアの労働安全衛生全般の進展に対しても多くのインパクトを与えている。

本プロジェクトの自立発展性についても、政策、組織、財務、技術、いずれの側面においても不安はない。ただし、NIOSH の能力強化が達成されたとはいえ、国家労働安全政策の要の機関としてのその能力を存分に発揮させるためには課題が残る。

この終了時評価調査はプロジェクト終了の一か月前の実施であるため、合同評価における提言は、プロジェクトに対する提言というより、NIOSH がプロジェクト終了後に目指すべき方向性について提示した。

具体的には、新しい労働安全衛生課題に対処するための研究開発体制の強化、労働安全衛生に関する情報（現場ニーズ）把握体制の強化、機器取り扱いのための手順書（SOP）の整備、研修受講者のフォローアップの充実等である。マレーシアの労働安全衛生の向上のためには、これらの NIOSH に対する提言の実行以外にも、労働災害報告体制や監督体制の実効性強化、中小企業対策など、残された課題が多いが、NIOSH の機能強化によって行政執行体制強化のための糸口を作ることができており、また、行政執行体制が強化されれば NIOSH の機能を更に高めることができる。本プロジェクトの成果の更なる発展のため、行政執行体制の強化への取り組みが強く望まれるところである。

守山団員（労働安全衛生行政）所感

1．ミッションに参加しての NIOSH プロジェクトに対する所感は次のとおり。

(1) NIOSH 事業は独立採算とのことである。そのためであろうが、研修コース等の収益事業の単価は高い。人件費をどうしているのかも気になるが、いずれにしてもこの点は立派であるとともに、英国の影響力がいかに強いかを感じさせられた。
研修、測定等の NIOSH が提供できるメニューも既に多く、今後の発展に期待したい。

(2) おそらく日本には実務的なことや技術的なことがもっぱら期待されていたのであろう。逆に、それが日本の強みであり、役割であると割り切ってもいいのかもしれない。

(3) プロジェクトは順調に進捗してきたものと見られる。マレーシアの経済的･知的水準の高さと長期・短期専門家各位の功績によるものだろう。マレーシアはすでに中進国の域に入ってきているようである。しかしながら、産業基盤が強固であるというほどまでではないようであり、安全衛生に関しても、実質が担保されるようになるにはまだしばらく時間がかかるのだろう。

(4) NIOSH の建物が建設中のころ現場を訪問したことがあり、それ以来の訪問であったが、建物に雨漏りの痕もなく、それなりにきちんとしているのはさすがであると感じた。

(5) システム評価の事業を NIOSH の関連組織で始めたようである。

(6) 事業場を二箇所見たが、現状はいまひとつよくわからなかった。マレーシアはブミプトラ政策をとる他民族国家で、外国人労働者の問題も存在しているが、安全衛生についても多少複雑なところはあるのかもしれない。

(7) 総論としては、マレーシアはそれほど大きな国ではなく、統治が行き届き、発展もしているので、安全衛生についても必要があればそれなりに対応していけるだろう、と思われた。

福澤団員（産業衛生）所感

１．産業衛生分野の協力について

（１） NIOSH の Industrial Hygiene Division の技術職員が C/P（調査時点で現員９名）

（２） 日本側投入： 長期専門家－常時１名（計２名）、短期専門家－14 名延べ 472 日、C/P 日本研修－11 名延べ 667 日、機材供与－JPY 19,773,128 + RM 2,794,670

（３） 成果： ハンドブック－3 冊（うち１冊は他部門との共同制作）、作業環境測定件数－87 事業場、2004 年の応相談件数－124 件、その他研修、セミナー等

２．産業衛生分野の協力についての所感

（１） ５年間の協力により、NIOSH がマレーシアにおける産業衛生に関する技術サービスを提供する機関の中核としての基盤ができた。Industrial Hygiene Division では、作業環境測定及び評価、化学物質のリスクアセスメント、作業環境改善、作業管理改善等において、外部に技術サービスを提供できるとともに研修部門が行う研修・セミナーの講師をできるという能力向上がみられた。

（２） C/P の離職があること（3 名）、他部門に比べて使用頻度の少ない供与機材が散見される等の問題点はあるが、①技術的能力を高めた C/P の離職率が高まることは如何ともし難く、SOP の整備等を通じて人材が流動化しても組織として技術・技能が保たれるようにすること、②中核機関として広範囲な測定、分析ができることは必須であり、使用頻度だけで必要性の有無は判断できないこと　を十分考慮しなければならない。

（３） 今後、良質な技術サービスを提供していくためには、現場での問題点を的確に把握し、具体的な解決方法を提示していく必要がある。このためには、外部からの依頼を待つだけの受身の姿勢ではなく、①災害調査に積極的に参加し、再発防止対策の提言をしていくこと、②調査研究を通じて NIOSH 自らが現場の問題、課題を把握して対策を考え、政策提言をしていくことが必要である。（１）でのべたように、５年間の協力でこのための技術的・人的基盤は、十分にできたものと考える。

伊規須団員（健康管理／人間工学）所感

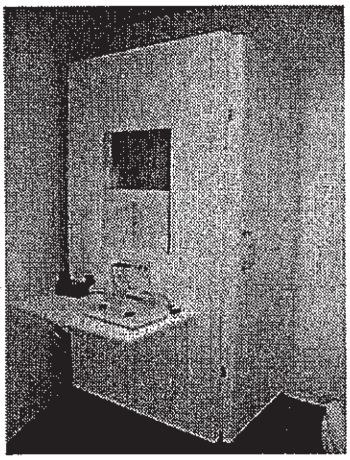
産業医学は、医学のなかでも特に応用性が高く、他のさまざまな分野との関連が深い。このため、医師・看護師だけでなく、広範な関連分野の人材、システム、施設などを必要とする。このことが、途上国への産業医学関連支援が必ずしも容易ではない大きな理由のように思われる。しかし、この点に関して、現在のマレーシアは、医学および関連分野の基礎的レベル、基本的施設(NIOSH)、経済的資源など比較的めぐまれた状況にある。一方、産業医学の導入は十分ではない。これらの点で、今回の事業は非常に時宜を得たものであったように思われる。

特筆すべきは、少数ではあるが、極めて意欲あふれた人材が現地に存在することである。本事業中、短期専門家として滞在した経験も有する者として、このようなカウンターパートの存在は、将来の発展のためにも極めて心強く感じられた。

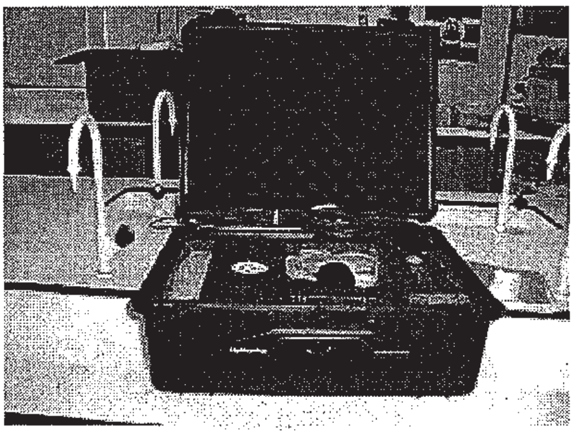
報告書にもあるように、今後、現地での研究遂行能力向上が重要と思われる。これに関して、理想的には実験室レベルの研究（分子生物学の導入など）まで考慮すべきであろうが、まず、現状の疫学的解析が必要と思われる。そのための効率的データ収集システムの構築は特に重要と思われる。マレーシアの労働人口の多くは回教徒であり、特徴的生活・労働習慣を有している（例えば、ラマダン期間中の労働）。従って、マレーシアの労働者に関する医学的研究は、将来同国だけにとどまらない重要な知見を提供する可能性も秘めているように思われる。

プロジェクト供与機材等関連写真（1／2）

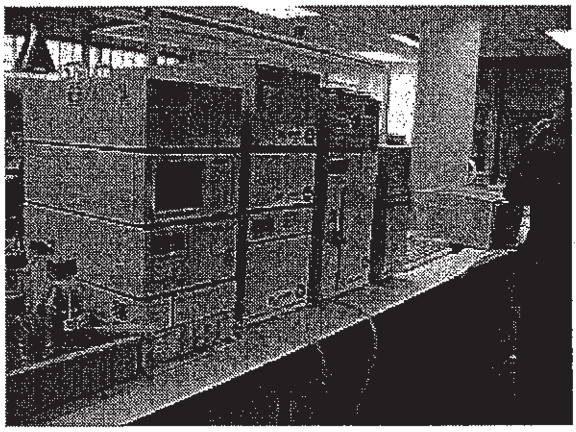
移動健診車



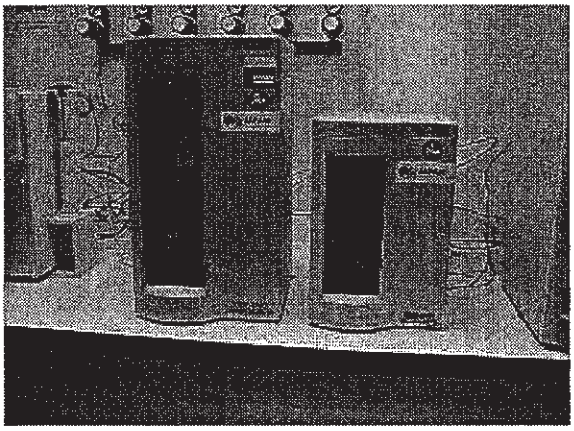
聴力検査機



騒音測定器



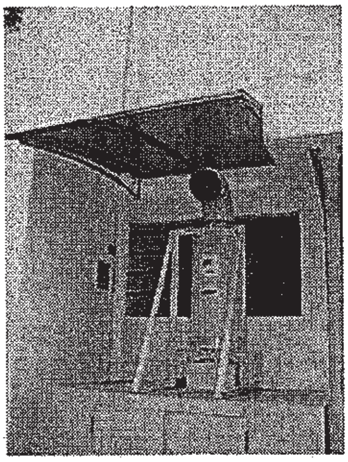
高速液体クロマトグラフィー



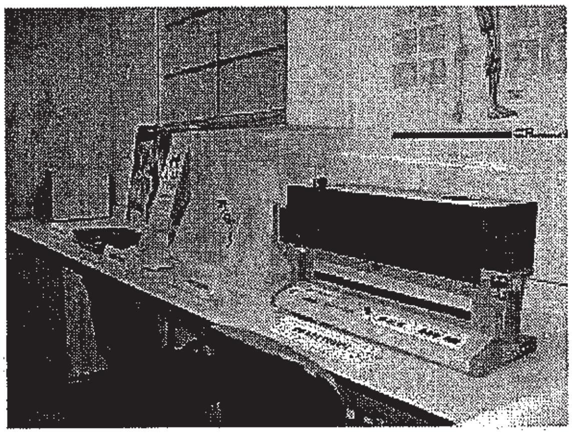
ガス発生装置（窒素。水素）

局所排気モデル

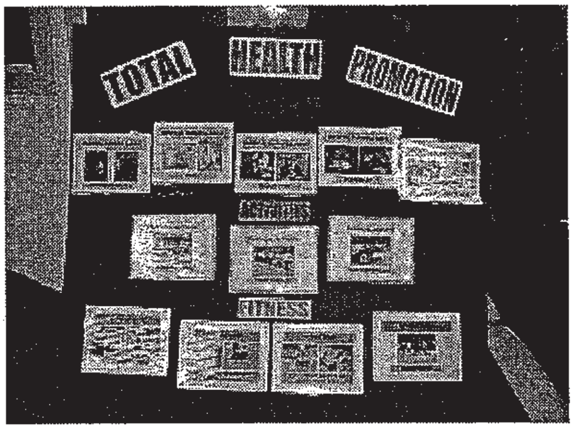
プロジェクト供与機材等関連写真（2／2）



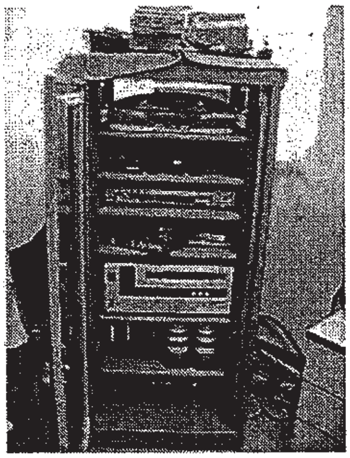
局所排気モデル（排気口）



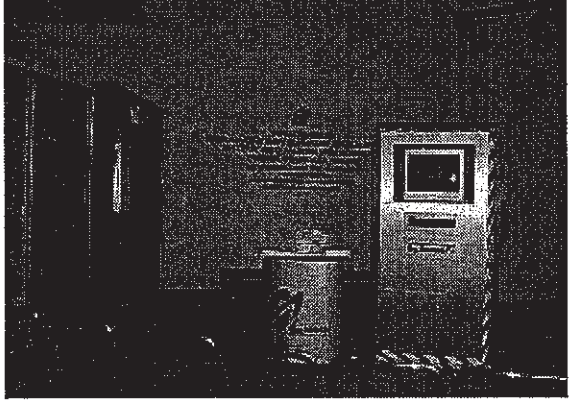
視力測定器



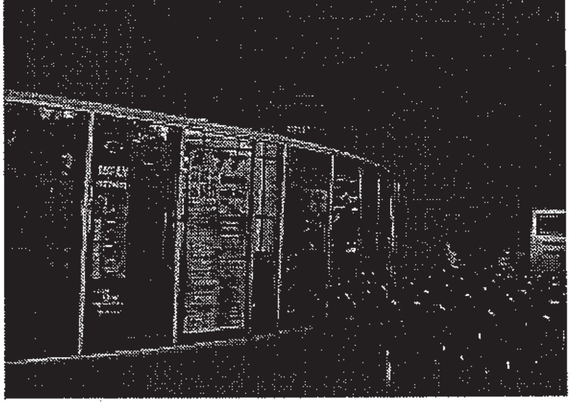
人間工学課
（Total Health Promotion ポスター）



情報課　供与機材
（デジタルビデオシステム等）



NIOSH 展示室



同左

JICA
ジャイカ